



2024年
改訂版

明石川オリジナル図鑑

神戸市の小学生が川を調査し
編集した手作りの図鑑です

始めに

徳田 桜花

私は、玉一アウアリウムに入って5年経ち、新たな後輩が増え、活動が楽しいです。5年経った今でも後輩から明石川にいる魚のことをくわしく教えてもらったり、逆に魚をより多くつかまえるためのコツを教え合って、お互いにたくさん学びで広がっています。

去年は、新型コロナウイルスが5類に引き下がり、普段の調査の参加人数が増え、図鑑監作の人数も増え、以前の活動の活気が戻ってきました。

5年経った今では、サポーターとして活動をしています。まだ分からないこともたくさんありますが、調査を続け、みんなを支えられるようなサポーターになれるように頑張ります。

☒鑑作成にあたって (和田 勇翔)

☒鑑作成で難しかったことは糸会を描くことです。

投票でみんなが☒鑑の絵の投票をして、自分の糸会に一番多くの票をもらって採用されたことがとてもうれしかったです。

形や色に気を付けて何回も描き直しました。

☒鑑に初めて絵がのることが決まったのでがんばって良かったです。

☒鑑作成で楽しいことは生き物のことが知れることです。

これからも明石川の色々な活動がんばりたいです。

図鑑作成にあたって (且 優愛)

私が図鑑作成にあたって難しかった事はきれいな字を書くことと、ニホントカゲの絵を描いた事です。図鑑を手に取り、読んでくれる人が、少しでも読みやすく、分かるように、丁寧な字で書きました。高学年になると書き順が多い漢字や難しい字を習うことがあるので難しいです。絵は本物に近づくため、よく写真を見て、形を整えました。特に、ニホントカゲの手足と頭の丸みを書くのに苦戦しました。そして、ニホントカゲの幼体は体が黒と虹色なので、とにかく色も濃くするために重ね塗りを続けました。これからも活動を頑張ります。



玉ーアクアリウムとは

- ・メンバー: 神戸市西区の玉津第一小学校の子どもたちとリーダー、保護者
- ・活動回数: 明石川で1週間に2回くらい
- ・活動内容: 魚・水生生物・植物の調査・捕獲など

年間を通じて、希少種の保護、外来種の駆除をしています。



明石川について



明石川は、源流である北区山田町から河口の位置する明石市まで、延長約26km、流域面積約127km²に及ぶ河川です。

流域の大部分は神戸市西区の田園地帯であり、田園風景の中を緩やかに流れ、下流域で櫛谷川、伊川と合流した後、播磨灘に注ぎます。

玉津第一小学校は、明石川と櫛谷川の合流地点の近くに位置しています。

目次

(大浦結那)

甲殻類

ヨシエヒ	1
ウシエヒ	2
テナガエヒ	3
ミナミテナカエヒ	4
ヒラテテナガエヒ	5
スジエヒ	6
ミズレヌマエヒ	7
カフリヌマエヒ属	8
アメリカザリガニ	9
クロベンケイガニ	11
オオヒライソガニ	12

タイワンオオヒライソガニ	13
--------------	----

モクズガニ	15
-------	----

サワガニ	16
------	----

昆虫類

アオモンイトトンボ	17
-----------	----

ハグロトンボ	18
--------	----

アサヒナカワトンボ	19
-----------	----

キイロサナエ	20
--------	----

コオニヤンマ	21
--------	----

ウチワヤンマ	22
--------	----

タイワンウチワヤンマ	23
------------	----

オニヤンマ	24
-------	----

ギンヤンマ	25
コシボソヤンマ	27
シオカラトンボ	28
コフキトンボ	29
コオイムシ	30
タイコウチ	32
ミズカマキリ	33
ヒメミズカマキリ	34
チラカゲロウ	35
モンカゲロウ	36
シロタニガワカゲロウ	37
ウデマカリコカゲロウ	38
サホコカゲロウ	39

シロハラコカゲロウ	40
オオトゲエラカゲロウ	41
オナシカワゲラ属	42
コガタシマトビケラ	43
ハイイロゲンゴロウ	44
コガムシ	45
貝類	
ミナミタガイ	46
イシガイ	47
マツカサガイ	48
マシジミ	49
タイワンシジミ	50

魚類

アカエイ	51
イセゴイ	52
ニホンウナギ	53
アユ	55
カマツカ	58
コウライモロコ	59
コウライニゴイ	61
コイ	62
ゲンゴロウブナ	63
ギンブナ	64
ヤリタナゴ	65
タイリクバラタナゴ	66

オイカワ	68
カワムツ	70
ヌマムツ	71
タモロコ	73
モツゴ	75
チュウガタスジシマドジョウ	76
ドジョウ	77
ロングノーズガー	78
タイワンドジョウ	79
カムルチー	80
スズキ	81
タイリクスズキ	82
オオクチバス	83

ブルーギル	85
クロホシフエダイ	87
クロホシマンジュウダイ	88
シロギス	90
コトヒキ	91
シマイサキ	92
クロダイ	93
キチヌ	94
ムラソイ	95
マタナゴ	96
メジナ	97
カワアナゴ	98
ドンコ	100

ヒメハゼ	102
ヒナハゼ	103
アベハゼ	105
カワヨシボリ	106
シマヒレヨシボリ	107
シマヨシボリ	108
ゴクラクハゼ	109
チチブ	111
ウロハゼ	112
マハゼ	113
ミミズハゼ	114
ウキゴリ	115
スミウキゴリ	116

マゴチ	117
ミナミメダカ	118
カダヤシ	120
グッピー	121
ギ"ギ"	122
ナマス"	124
テングヨウジ	127
ボ"ラ	128
メナダ"	129
クサフグ"	130
シマフグ"	131

両生・爬虫類

ウシガエル	132
ヌマガエル	134
スッポン	135
アカミミガメ	136
クサガメ	138
ニホンイシガメ	139
ニホントカゲ"	140
ニホンカナヘビ"	141
ニホンマムシ	142
ヒバカリ	143
シマヘビ"	144
アオダイショウ	145

鳥類・哺乳類

ヒクイナ ————— 146

カイツブリ ————— 147

コウノトリ ————— 148

クロツラヘラサギ ————— 149

アオサギ ————— 150

タイサギ ————— 151

コサギ ————— 152

マガモ ————— 153

カルガモ ————— 154

ヒシクイ ————— 155

オオマガン ————— 156

カワウ ————— 157

カワセミ ————— 158

カヤネズミ ————— 159

ヌートリア ————— 160

ニホンイノシシ ————— 161

解説

(竹葉 真心)

青字 - 環境省、兵庫県、神戸市、明石市などに指定されている絶滅危惧種

赤字 - 環境省、兵庫県、神戸市などに指定されている外来種と指定されていない外来種

①神 - 明石川水系の神戸市のみで見つかる生き物

①明 - 明石川水系の明石市のみで見つかる生き物

①神①明 - 明石川水系の神戸市と明石市の両方で見つかりますが、神戸市の方が多く見つかる生き物

①明①神 - 明石川水系の明石市と神戸市の両方で見つかりますが、明石市の方が多く見つかる生き物

ヨシエビ

葦 蝦

(明)

Metapenaeus ensis

クルマエビ科 ヨシエビ属

関東地方より南

15~18cm

内湾や汽水域の砂泥底に生息し、明石川では河口付近の流れによって深くなった橋脚まわりの泥底に多くいます。

海~河口にいて、明石川下流の淡水域まで進入してくることはありません。

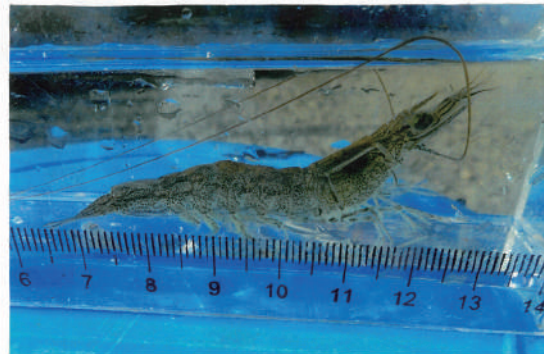
食用としても売られています。(西岡 龍久介)



ヨシエビ (絵・永田 惇人)



明石川河口付近で捕まえたヨシエビの幼体です。海水~汽水域にいます。



観察ケースに入れて観察しました。ヨシエビは明石川水系では河口付近でしか捕れません。

ウシエビ

牛 虫 段

明

Penaeus monodon

クルマエビ科 ウシエビ属

東京湾より南

30 cm

インド太平洋の熱帯や亜熱帯地域に分布していますが、西日本にも生息し、明石川河口付近でも発見しました。

主に海にいますが、汽水域や淡水域にも進入します。
クルマエビに似ていますが全体的に黒く、別名の
ブラックタイガーとして食用でも有名で、養殖もされています。

(西岡 龍介)



ウシエビ (絵・永田 惇人)



干潮の明石川河口付近で調査をしている様子です。
ウシエビは、この近くで捕れました。



干潮の明石川河口付近で捕れたウシエビの幼体です。
ブラックタイガーが明石川にいたとは思っていませんでした。

テナガエビ

手長蝦

神 明

Macrobrachium nipponense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

本州、四国、九州

10 cm

明石川水系では、源流～河口近くまでの広い範囲、そして多くの支流やその用水路など様々な場所に生息しています。

流れが弱い多少石がある砂底が好きですが環境の変化に強く、時には流れのないヘドロが溜まっている汚いコンクリート張りの用水路などにもいます。

ヒラテナガエビや、ミナミテナガエビよりも足が糸細くて弱く、足の爪が長いです。(西岡 龍介)



テナガエビ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕れたテナガエビの成体です。
胸にはM字型のようなぼやけた模様があります。



明石川中流で捕れたテナガエビの成体です。
ミナミテナガエビよりも足の爪が長いです。

ミナミテナガエビ

南手長蝦

明神

Macrobrachium formosense

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

福島県・福井県より西の本州、四国、九州

10cm

神戸市Cランク

明石川水系では中流～下流や支流の伊川に生息しています。

テナガエビととてもよく似ていますが、テナガエビよりも胸のM字型の模様をはっきりしていて、足の爪の長さも短いです。

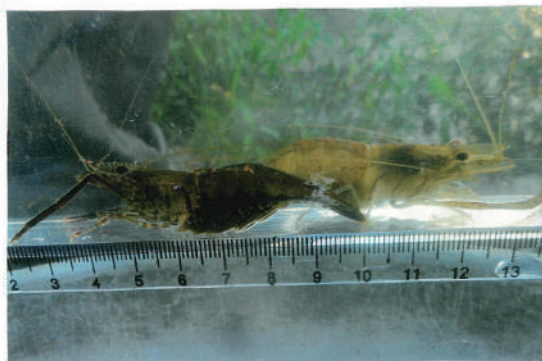
ヒラテナガエビより下流にいることが多く、足の爪の長さはヒラテナガエビよりも長く、テナガエビよりも短く性質は中間くらいです。(西岡龍之介)



ミナミテナガエビ (絵・永田 博人)



明石川下流で捕れたミナミテナガエビの成体です。テナガエビよりも足の爪が短いのも特徴です。



明石川下流で捕れたミナミテナガエビの成体のペアです。胸のM字型の模様をはっきりしているのも特徴です。

ヒラテテナガエビ

平手手長蝦

神 明

Macrobrachium japonicum

テナガエビ科 テナガエビ亜科 テナガエビ属

千葉県より南の本州、四国、九州

7~9cm **兵庫県Aランク**
神戸市Bランク

明石川水系では、中流~下流や支流の伊川や櫛谷川などに生息していて、ミナミテナガエビよりも上流まで遡り、浅くて石が多くて流れが早い渚が好きて、石の下にかくれています。

足が強く、陸上でも歩こうとします。

神戸市Bランクですが、明石川中流~下流には多く生息しています。(西岡 龍介)



ヒラテテナガエビ (絵: 永田 博人)



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの成体です。第2胸脚が長く太く平たくなっていて、足も太くて丈夫でタモ網で捕ると登ってくることもあります。



明石川中流で捕れたヒラテテナガエビの成体のペアで、上がオスで下がメスで、第2胸脚(はさみ足)の大きさが違います。胸に縦糸系高木模様があり足の爪は短いです。

スジエビ

筋蝦

(神)(明)

Palaemon paucidens

テナガエビ科 テナガエビ亜科 スジエビ属

北海道～九州、種子島、屋久島

3.5cm～5cm

明石川水系では中流～下流、支流、用水路などにも生息しています。

テナガエビ属は川底の石の下にかくれていることが多いのに対して、スジエビは水中の草の茂みの中にかくれていることが多いです。

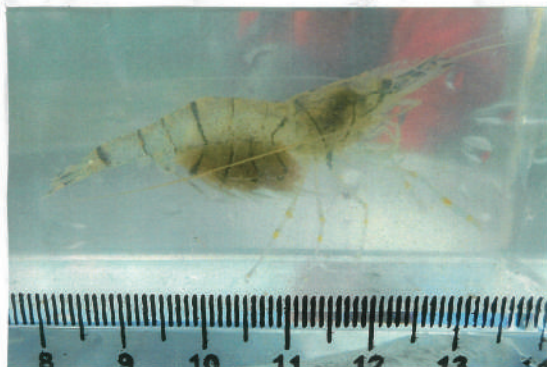
体に7本のスジがあり、複眼が飛び出ているように見えるのが特徴です。(西岡 龍介)



スジエビ (絵: 永田 惇人)



平野大池の用水路で捕まえたスジエビの未成体です。明石川本流の堰の下や用水路で大量発生します。



明石川中流で捕まえたスジエビのメスの成体です。お腹に卵を抱えています。

ミゾレヌマエビ

雲 沼 蝦

(明)(神)

Caridina leucosticta

ヌマエビ科 ヒメヌマエビ亜科 ヒメヌマエビ属

新潟県・千葉県より西の本州、四国、九州
南西諸島

2cm～3cm

明石川下流の草の茂みに多く生息し、支流の伊川や
明石川中流にも数は少ないですが生息しています。

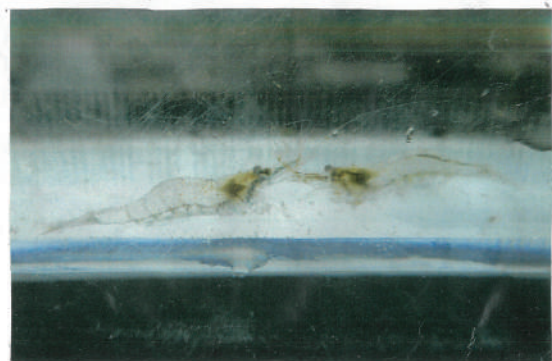
透明感のある、きれいで細長いヌマエビでカワリヌマ
エビ属に比べて少し弱く、カワリヌマエビ属よりは飼い
にくいヌマエビです。(西岡 龍介)



ミゾレヌマエビ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕まえたミゾレヌマエビです。下流の
流れの弱い草の茂みにはたくさんいます。



明石川中流で捕まえたミゾレヌマエビです。数は
多くありませんが、中流にもカワリヌマエビ属と共に
ミゾレヌマエビも捕れます。

カワリヌマエビ属神 明

Neo caridina
ヌマエビ科 カワリヌマエビ属

日本各地
2~3cm

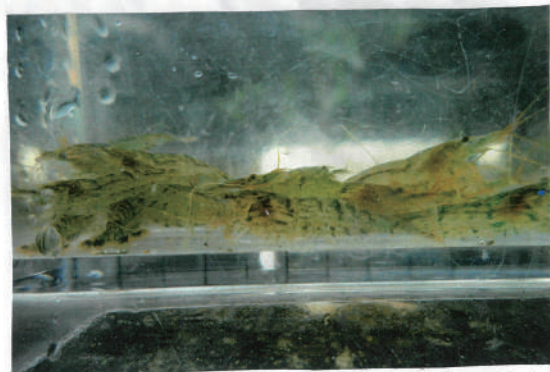
外 来 種

明石川水系の本流や支流、用水路にとても多く、釣り餌のブツエビとして中国や韓国から輸入されたものが逃げたり放流されたものと言われていますが詳細は不明です。

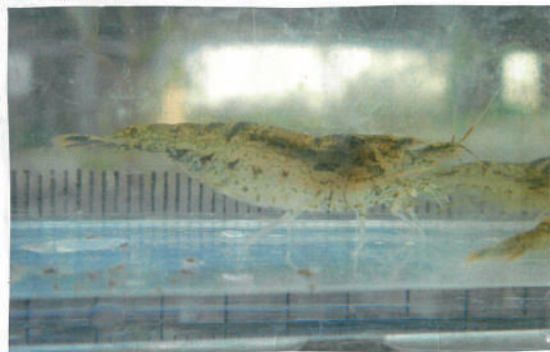
色や模様は変化が多く、在来種のミナヌマエビにとてもよく似ている、最初はミナヌマエビだと思っていました。(中初音)



※イラストはミナヌマエビです (絵・永田 惇人)



明石川支流の田中川用水路で捕まえたカワリヌマエビ属の成体です。



カワリヌマエビ属のメスの成体です。オスよりもメスの方が大きくなります。

アメリカザリガニ (神明)

Procambarus clarkii

アメリカザリガニ科 アメリカザリガニ属
放流により日本全国

8 ~ 12 cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県注意種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

泥の多い田んぼや用水路や池などの流れがゆるやかな場所や流れのない場所に多く、明石川水系では明石川本流よりも流れがゆるやかな支流の細流や用水路に多く生息しています。馬区除を続けてきた結果、現在は減ってきています。(西岡 龍之介)



アメリカザリガニ 成体

(絵・鈴木 詩)



明石川水系で捕れるアメリカザリガニは、今はほとんどが幼体~未成体です。



明石川水系の用水路で捕まえた マッカチンとも呼ばれる アメリカザリガニの成体です。最近では少なくなりました。



明石川中流で以前に捕まえたアメリカザリガニの成体です。



明石川支流の田中川にたくさんいたのをザリガニ釣りて捕まえました。



明石川支流の福知川源流で捕まえたアメリカザリガニのメスの成体です。おなかに幼体を抱えています。



寄生虫を予防するため30分間ボイルして身を取り出します。このあと天ぷらやエビチリにしますがエビチリ(ザリチリ)が一番人気でした。

クロベンケイガニ

黒弁慶蟹

明

Orisarma dehaani

ベンケイガニ科 クロベンケイガニ属

本州より南

3cm 兵庫県Cランク
神戸市Cランク

明石川下流～河口にいるカニで、石組みのすき間や泥の中に穴を掘って生活しています。

見かける確率は、水の中よりも湿った陸上の方がかなり高く、明石川下流～河口から少し離れた道路や公園や野原にいることもあります。(宮本 彩音)



クロベンケイガニ(絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で干潮時に見つけたクロベンケイガニです。
この時は水の中にいました。



明石川下流の石組みのすき間にかかれていたクロベンケイガニです。湿っていますが水のない場所です。

オオヒライソガニ

大平磯蟹

明

Varuna litterata

モクズガニ科 オオヒライソガニ属

インド洋・太平洋海域

5 cm

体が平べったくて、モクズガニに似ています。
明石川下流の茂みにいますが、ハサミではなく足にやわらかい毛が密に生えていました。

2021年11月に明石川下流で初めて捕れたメスの成体の標本の生殖口が卵形の突出したボタンのような形状から神戸市環境局の土井さんがオオヒライソガニと同定してくださいました。2023年12月の時点で、オオヒライソガニと同定されたのは、この1匹だけです。
(西岡龍之介)



オオヒライソガニ(絵・永田惇人)



明石川下流の伊川合流点付近の明石川右岸の茂みにいたオオヒライソガニの成体です。



明石川で初めて捕れたので標本にして、兵庫県立人と自然の博物館に標本登録されています。

タイワンオオヒライソガニ

台湾大平磯蟹

明神

Varuna yui

モクズガニ科 オオヒライソガニ属

インド洋 太平洋海域

情報不足 5 cm

2022年7月に明石川下流でオオヒライソガニ属では2匹目に捕れたメスの未成体の標本の生殖口が小さな低いオタンのような形状の上に半円形のふたがあり、また2023年7月にはオスの未成体も捕れ第1腹肢の先が切れ込んでいることから神戸市環境局の土井さんがいずれもタイワンオオヒライソガニと同定してくださいました。

明石川下流の伊川合流点付近ではオオヒライソガニ属のメガロパ幼生～幼体がたくさん捕れるようになりましたが、その多くがタイワンオオヒライソガニのようです。(佐野こころ)



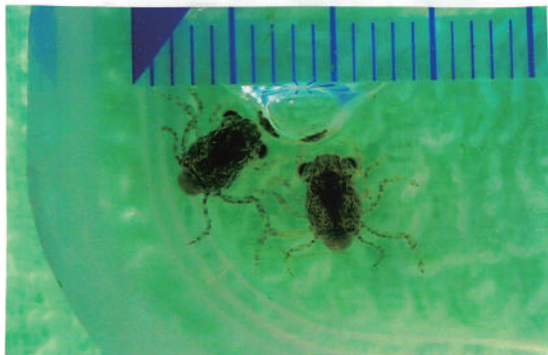
タイワンオオヒライソガニ (絵・永田惇人)



明石川下流の伊川合流点付近の明石川左岸の浅瀬を歩いていたタイワンオオヒライソガニの未成体です。



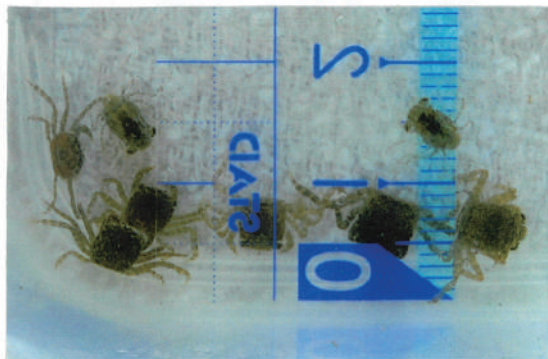
明石川で捕れた2匹目なので標本にして、兵庫県立人と自然の博物館に標本登録されています。



2023年11月に明石川下流の伊川合流点付近で捕れた
オオヒライソガニ属のメガロパ幼生です。



2024年1月には全て幼体になりました。その多くが
タイワンオオヒライソガニのようです。



2023年11月～12月は明石川下流でメガロパ幼生から
幼体に成長することもわかってきました。



春近くになると、こんなに大きくなりました。晩秋へ
初冬にかけてメガロパ幼生から幼体に成長し、春から
先はさらに成長し成体になっているみたいです。

モクズガニ

藻屑蟹

神(明)

Eriocheir japonica

モクズガニ科 モクズガニ属

小笠原諸島を除く日本全国

7~8 cm

明石川本流や支流の伊川、櫛谷川、田中川、福知川など
どこでもよく見かける大きめのカニです。

支流の用水路や水路にもいますが、成体になると海に
下り、海で産卵します。

生まれた幼生は海でプランクトンとして成長し、幼体とな
って水底に降り川を遡ります。

はさみに藻の屑のような毛が生えているのが特徴です。
(藤澤 太一)



モクズガニ(絵・弓削 朱花梨)



脱皮したばかりのモクズガニのオスです。脱皮直後の
モクズガニのはさみの毛は白いです。



明石川中流で捕れたモクズガニの成体です。
この個体も脱皮して間がなく、甲羅がやわらかく
まだ脱力感があります。

サワガニ

沢 蟹

神

Geothelphusa dehaani

サワガニ科 サワガニ属

青森県～トカラ列島

2cm～3cm

日本固有種で一生を淡水で過ごす純淡水性のカニです。

明石川水系では源流～上流に生息していて、源流の蛇谷川や、支流の印路川や福知川、時には校区内のニッ屋橋～若宮橋付近の櫛谷川で見つかることもあります。

水のきれいな場所が大好きで、きれいな川の水が冷たい所なら用水路にもたくさん生息しています。(佐野こころ)



サワガニ

(絵、大浦結那)



サワガニ(青)

(絵、弓削朱花梨)



明石川支流の櫛谷川にいたサワガニの成体です。近づいたらすぐに逃げてしまいました。



高知県の国分川上流の新改川にいた青いタイプのサワガニの成体です。とてもきれいな色でした。

アオモイトトンボ

青紋系蜻蛉

神 明

Ischnura senegalensis

イトトンボ科 アオモイトトンボ属

本州～沖縄

3cm～4cm

明石川水系では、上流から河口近くまで広く生息しています。

アオモイトトンボの幼虫は、ハグロトンボの幼虫の幼～若齢期と感じがよく似ています。

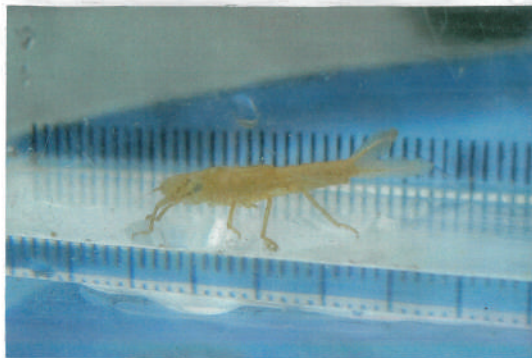
オスの成虫は、尻尾の先が青く、メスの成虫はオスの成虫と同じ色のタイプと違うタイプがあり、羽化をして成虫になったばかりの頃は、きれいなオレンジ色の個体もあります。

尻尾のえらを横から見ると、鳥の羽のような形をしています。

(竹葉真心)



アオモイトトンボ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の流れの緩やかな草の茂みで捕まえたアオモイトトンボの幼虫です。アオモイトトンボの幼虫は、明石川の河口近くにもいます。



明石川支流の櫛谷川の河川敷の草の茂みにいたのを捕まえたアオモイトトンボの成虫です。小さくてあまり目立たないけどたくさんいます。

ハグロトンボ

羽黒蜻蛉

神 明

Calopteryx atrata

カワトンボ科 アオハダトンボ属

本州～屋久島

6～7cm

幼虫や成虫は、明石川水系にはとてもたくさんいて、幼虫はヤゴの中では弱々しく見えて体をゆらゆら振って泳ぎます。

羽化した成虫は黒い羽をひらひらさせてゆるやかに飛び、しばらくは暗い林の中などで生活し、成長したら元の水辺に戻ってきます。(佐野 ころ)



(絵・藤澤 太一)



ハグロトンボの幼虫です。水辺に草がたくさん生えている明石川水系にはとてもたくさんいます。



夏の朝早く明石川中流に來ると、水辺の朝露のついた草の葉にとまって休んでいるハグロトンボの成虫をよく見かけます。

アサヒナカワトンボ

朝比奈川蜻蛉

神

Mnais pruinosa

カワトンボ科 カワトンボ属

本州、四国、九州

5 cm

山地や郊外の木に覆われた溪流や細流に生息し、明石川水系では蛇谷川源流や印路川源流、福知川などにいます。

幼虫はハグロトンボの幼虫を太く短くした感じで、成虫は春早くから飛び始めます。

幼虫も成虫も小さな虫を食べる肉食です。(西岡 龍之介)



アサヒナカワトンボ (絵・藤澤太一)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたアサヒナカワトンボの幼虫です。



明石川支流の蛇谷川の源流付近の沢沿いの山道にいたアサヒナカワトンボの成虫です。

幼虫も成虫も感じがハグロトンボに似ています。

キイロサナエ

黄色早苗蜻蛉

(神)(明)

Asiagomphus pryeri

サナエトンボ科 アジアサナエ属

本州、四国、九州

31mm ~ 35mm

準絶滅危惧

兵庫県Bランク
神戸市Cランク

とてもよく似たヤマサナエと共に明石川水系では源流
〜下流に生息しています。

キイロサナエは腹部の第9節が細長いですが、ヤマサナエは第9節が幅が広がっています。(巨優愛)



成虫



幼虫

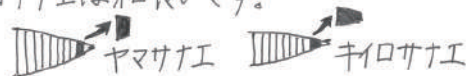
キイロサナエ (絵・藤澤太一)



明石川支流の福知川源流で捕まえたキイロサナエの幼虫です。源流付近は砂泥底でキイロサナエが多くいます。



左の大きい方がヤマサナエで、右の小さい方がキイロサナエです。ヤマサナエの腹部第9節は幅が広がっていますが、キイロサナエは細長いです。



コオニヤンマ

小 魁 蜻 蛉

神 明

Sieboldius albardae

サナエトボ科 コオニヤンマ属

北海道～屋久島

8cm～9cm

明石川水系では源流～下流に生息しています。
幼虫は黒くて平べったくて、枯れ葉にそっくりです。
成虫の頭部は体に比べてとても小さく、成虫は
オニヤンマより小型でコオニヤンマと名前がついていますが
ヤンマではなくサナエの仲間です。(亘 優愛)



コオニヤンマ幼虫 (絵: 永田 博人)



明石川中流で捕まえたコオニヤンマの幼虫です。
ヌマエビの幼体など小さな生き物を食べています。



高知県の国分川上流の新改川で捕まえたコオニヤンマの成虫です。川の上をパトロールしながら3匹くらい飛んでいました。

ウチワヤンマ

団扇蜻蜓

神

Sinictinogomphus clavatus

サナエトボ科 ウチワヤンマ属

本州・四国・九州

7cm~9cm

明石川水系では平野大池でウチワヤンマがよく見られます。

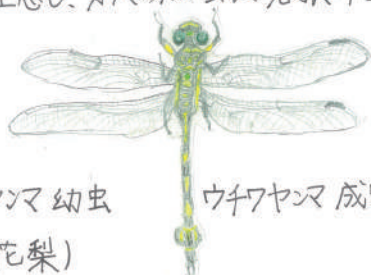
腹部第8節に うちわのような突起があり、うちわは大きく中に黄斑があります。

ウチワヤンマと名前が付いていますが、サナエトボの仲間です。開けた場所に生息し、オスの成虫は見張りをしています。(巨 優愛)



ウチワヤンマ 幼虫

(絵、弓削 朱花梨)



ウチワヤンマ 成虫



ウチワヤンマの抜け殻です。幼虫は深い川にいたためなかなか捕れません。



平野大池の水辺にいたウチワヤンマの成虫です。飛んだり休んだりを繰り返していました。

タイワンウチワヤンマ

台湾団扇蜻蜓

明

Ictinogomphus pertinax

サナエトボ科 タイワンウチワヤンマ属

関東より西の本州、四国、九州

7cm～8cm

明石川水系では明石川下流の工事で河原が湿地のようになった所でタイワンウチワヤンマの幼虫が見られます。

腹部第8節にうちわのような突起があり、うちわは小さく中に黄斑はなく黒色です。

ウチワヤンマの幼虫は深い所にいてなかなか捕れませんが、タイワンウチワヤンマは浅い所にいるので捕れます。

(西岡龍介)



タイワンウチワヤンマ 幼虫

(絵・弓削 朱花梨)



タイワンウチワヤンマ 成虫



タイワンウチワヤンマの幼虫が捕れた明石川下流の河原が湿地のようになった所です(左側)。



タイワンウチワヤンマの幼虫です。ウチワヤンマに比べて幼虫は浅い所に生息しています。

オニヤンマ

鬼蜻蛉

神

Anotogaster sieboldii

オニヤンマ科 オニヤンマ属

日本全国

9 ~ 10 cm

日本のトンボの中で最も大きく、明石川水系では里山の広がる源流～上流や支流の細流に生息しています。

明石川が増水した時には上流にいる幼虫が中流に流されてくることがあります。

明石川中流では、コオニヤンマやギンヤンマに比べて数が少なく、成虫のオスは同じルートを行ったり来たりしてパトロールをしています。

(和田 勇翔)



オニヤンマ 成虫



オニヤンマ 幼虫

(絵・永田 惇人)



明石川水系の本流には少ないオニヤンマの幼虫も里山の源流や支流の細流にはたくさんいます。



オニヤンマは成虫が大きいので幼虫も大きいです。この大きなオニヤンマの幼虫は明石川が増水した後に中流に流されてきたのを捕まえました。

ギンヤンマ

銀蜻蜓

神 明

Anax parthenope julius

ヤンマ科 ギンヤンマ属

北海道～沖縄

7 cm ～ 8 cm



朝、明石川支流の田中川用水路沿いの駐車場で見つけたギンヤンマの成虫です。羽化しにばかりです。



明石川中流で捕まえたギンヤンマの幼虫です。明石川水系には餌となるヌマエビやオイカワの幼魚が多いのでギンヤンマの幼虫も多いです。

成虫はコオニヤンマより少し小さくて、なわばりが広くてオスはよくパトロールをしていて、他のオスを見つると激しく攻撃します。

幼虫は大きくて細長く、下あごを瞬間的に伸ばして餌を捕まえます。

明石川水系にはギンヤンマの幼虫がたくさんいて、玉津第一小学校のビオトープにも幼虫がたくさんいるので、校舎の中に羽化した成虫が迷い込んでくるのがよくあります。(西川望乃)



ギンヤンマ幼虫



ギンヤンマ成虫

(絵・藤澤太一)



玉津第一小学校のビオトープで羽化したギンヤンマの抜け殻です。毎年産卵に来ています。



明石川中流で合流する国道沿いの用水路で産卵するギンヤンマの成虫のペアです。



明石川支流の礪谷川で捕まえたカラフルなタイフ°のギンヤンマの幼虫です。礪谷川にはたまにいます。



明石川支流の田中川用水路で捕まえた真っ黒いタイフ°のギンヤンマの幼虫です。

コシボソヤンマ (神)

腰細蜻蛉

Boyeria maclachlani

ヤンマ科 コシボソヤンマ属

北海道、本州、四国、九州

8cm～9cm

明石川水系では源流～中流にいて、河川に生息するヤンマで幼虫は捕まえられると体を反らして固まって、擬死といて死んだふりをするのが特徴です。

成虫の腹部第3節がとて細くふいて腰が細く見えることからコシボソヤンマと名前がつけられました。(鈴木 詩)



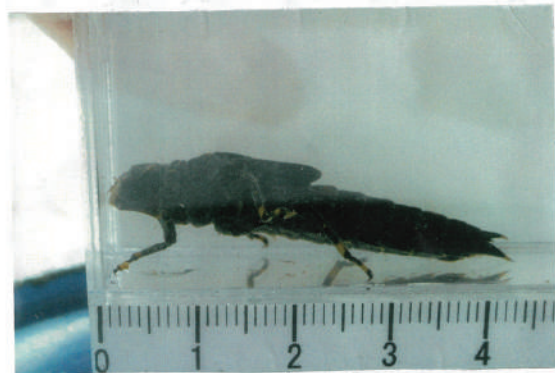
幼虫

成虫

コシボソヤンマ (絵・藤澤太一)



コシボソヤンマの幼虫は、捕まえて手に乗せると足を縮めて体を反らして固まって、死んだふりをします。



明石川中流で捕まえたコシボソヤンマの幼虫です。明石川水系の源流～上流に多くいて、大雨の増水の時に中流に流されてくるみたいです。

シオカラトンボ

塩辛蜻蛉

神 明

Orthetrum albistylum speciosum

トンボ科 シオカラトンボ属

ほぼ日本全国

5cm~6cm

成虫は明石川水系だけでなく、校区内の住宅地にもふつうにいるトンボです。

明石川水系の本流や支流の他に泥の多い用水路など汚いと思うような場所にも幼虫がたくさん生息しています。

よく似ているオオシオカラトンボの幼虫とは、背中にトゲがないことで見分けられます。(西岡 龍え介)



幼虫



成虫 オス♂

シオカラトンボ (絵・永田 惇人)



明石川支流の田中川の用水路で捕まえたシオカラトンボの幼虫です。藻や泥の中にいました。



明石川中流の土手で休んでいたシオカラトンボのオスの成虫です。しばらくして飛んで行きました。

コフキトンボ

粉吹蜻蛉

明

Deielia phaon

トンボ科 コフキトンボ属

北海道～沖縄

4cm

水生植物がたくさん生えている池や水路などに生息し、明石川水系では明石川下流の河原が河川工事で掘り返された後に草が生えて湿地のようになっていた場所を調査して、コフキトンボの幼虫が捕れました。

成虫はシオカラトンボを小さくしたような感じで、成熟すると粉を吹いたようになることから、コフキトンボと名前がつけられました。(西岡 龍介)



幼虫



成虫

コフキトンボ (絵・藤澤太一)



明石川下流の河原が湿地のようになっている場所をガサガサして捕まえたコフキトンボの幼虫です。



幼虫も黒くて小さいですが、シオカラトンボの幼虫に似ています。足に縞模様があります。

コオイムシ

子負虫

(神) (明)

Diplohychus japonicus

コオイムシ科 コオイムシ属

本州～九州

2cm

準絶滅危惧

明石川水系で卵を背中に背負っている姿を時々見ますが、卵を背負っているのは、メスではなくオスです。

メスがオスの背中に卵を産んで、オスが大切に育てます。

川や用水路の茂みをガサガサすると、成虫とそっくりな小さな幼虫がたくさん捕れることがあります。

最近、よく増えています。(西岡龍二介)



コオイムシ成虫♂ (絵、永田惇人)



明石川支流の櫛谷川で見つけた羽化したばかりのコオイムシの成虫です。まだ体が白くてやわらかいです。



玉津第一小学校で飼っていた卵を背負ったコオイムシのオスの成虫です。産まれてきた幼虫は1匹ずつ紙コップに入れて大切に育てました。



学校でコオイムシが卵孵化しました。教室で孵化の様子を観察しました。



生まれてきた幼虫は共食いをしないように1匹ずつ紙コップに入れて育てます。餌は生まれたばかりのヌマエビの小さな幼体です。



ヌマエビを食べて月脱皮を繰り返しながら少しずつ大きくなります。



幼虫がある程度大きくなったら、成虫を捕まえた檀谷川の元の茂みにリリースしました。たくさん増えてほしいです。

タイコウチ

太鼓打虫

神

Laccotrepes japonensis

タイコウチ科 タイコウチ属

本州～沖縄

3cm～4cm

太鼓を打つように前足を交互に動かすため、タイコウチと呼ばれています。

呼吸管の長さは体長と同じ長さで、水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸う肉食です。

明石川水系では草の茂みなどに生息していて、最近ではほとんど見なくなりましたが、2024年5月に明石川中流で確認しています。

(西岡 龍え介)



タイコウチ成虫 (絵・永田 惇人)



泥の多い用水路の藻の中にいたのを捕まえたタイコウチの成虫です。呼吸管が分かれています。



明石川中流の流れの弱い草の茂みで捕まえたタイコウチの成虫です。捕れるのはいつも草の茂みの水面近くの浅い所です。

ミズカマキリ

水 蟻 螂

神 明

Ranatra chinensis

タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本全国

4cm~5cm

神戸市要調査

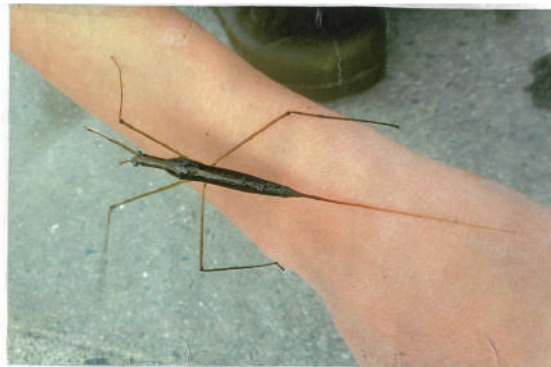
田んぼや池沼に生息していますが、明石川水系にも生息していて、2022年10月に明石川中流の溜まりで初めて捕れ、その後は明石川支流の福知川や明石川下流でも捕れています。

水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸う肉食で、呼吸管の長さが体長と同じか体長より少し長いので、大きさ以外でもヒメミズカマキリと見分けられます。

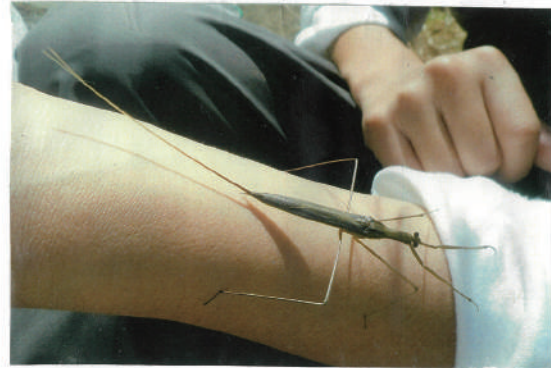
明石川ではヒメミズカマキリよりも個体数はかなり少ないです。(西岡 龍介)



ミズカマキリ成虫 (絵・永田 惇人)



明石川で初めて捕れたミズカマキリ(成虫)です。明石川中流の溜まりで捕れました。ヒメミズカマキリより大型で、呼吸管が体長と同じ位か、それより少し長いです。



明石川下流の汽水域で捕れたミズカマキリの成虫です。呼吸管の先が2つに分かれています。

ヒメミズカマキリ

姫水螳螂

神 明

Ranatra unicolor
タイコウチ科 ミズカマキリ属

日本 全国

2.5cm ~ 3cm

明石川水系の中流～下流、支流、用水路にも生息し、田んぼや池沼にいるミズカマキリと違って、明石川水系の流れの弱い草の茂みにいます。

タイコウチやミズカマキリは、水生昆虫やオタマジャクシや小魚などの体液を吸いますが、ヒメミズカマキリはアメンボやミズムシなどの水生昆虫が主です。

明石川水系ではミズカマキリよりも個体数が多くて、まとまって捕れることが多く、呼吸管の長さが体長よりも短いです。

(西岡 龍之介)



ヒメミズカマキリ成虫 (絵・永田 惇人)



平野大池用水路で捕まえたヒメミズカマキリの成虫です。ミズカマキリよりも小さく呼吸管も短いです。



明石川中流の流れの弱い草の茂みで捕まえたヒメミズカマキリの成虫です。1匹捕れたらその近くを探すと何匹も捕れることが多いです。

チラカゲロウ

ちら蜉蝣

神

Isonychia japonica

チラカゲロウ科 チラカゲロウ属

日本全国

2cm

上流～中流にかけて広く分布していますが、明石川では源流～上流の流れが早いところに生息しています。

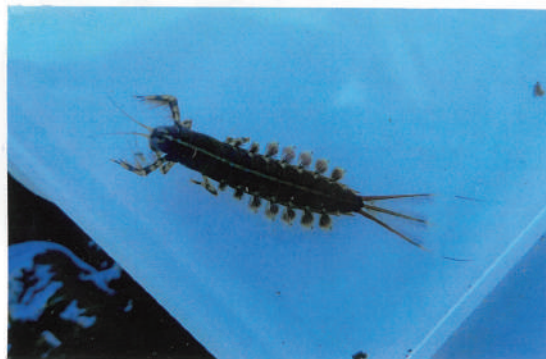
チラカゲロウは前足に長い毛が生えていて、この長い毛で流れてくる小さな餌をひっかけて食べています。(西岡龍介)



チラカゲロウ幼虫 (絵・永田 惇人)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたチラカゲロウの幼虫です。明石川水系では源流～上流に生息していて中流ではほとんど見られません。



写真でも前足に長い毛が生えているのがよくわかります。流れの早い所でこの長い毛を使って流れてくる餌をひっかけて食べています。

モンカゲロウ

紋蜉蝣

神

Ephemera strigata

モンカゲロウ科 モンカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

2 cm

中流に分布していますが、明石川では源流～上流の流れのゆるやかなところに生息しています。

幼虫はいつも石少の中にもぐって、成虫の前翅には黒い帯状の紋があります。(西岡 龍介)



モンカゲロウ幼虫
(絵・藤澤 太一)



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたモンカゲロウの幼虫です。明石川水系では源流～上流に生息していて中流ではほとんど見られません。



明石川支流の蛇谷川の源流付近で捕まえたモンカゲロウの亜成虫です。まわりでもたくさん羽化していました。

シロタニガワカゲロウ

白谷川蜉蝣

(神)(明)

Ecdyonurus yoshidae

ヒラタカゲロウ科 タニガワカゲロウ属

本州、四国、九州

1cm ~ 1.5cm

明石川水系の上流～中流の流れのある場所に生息し、平べったい形をして石の下にいて、石の表面を這うように動き、石などに生える藻類を食べています。

季節や場所によって、たくさん捕れたり捕れなかつたりします。

頭の先端部分に白い小さな斑点が同じ間隔で4つ並んでいるのが特徴です。(西岡 龍介)



シロタニガワカゲロウ幼虫 (絵、永田 惇人)



明石川中流で捕れたシロタニガワカゲロウの幼虫です。3本の長い尾があり、写真ではわかりにくいですが、頭の先端に白い斑点が4つ等間隔に並んでいます。



明石川中流の川底の石をひっくり返して見つけたシロタニガワカゲロウの幼虫です。石を這うように動きます。時には明石川下流の伊川合流点付近でも見つかります。

ウデマガリコカゲロウ

腕曲ガリ小蜉蝣

神 明

Baetis flexifemora

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

3～8 mm

成虫は、付着藻類などを食べています。

成虫は平地の上流～下流にかけて広く分布していますが明石川水系では中流～下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。

流れが早い浅い場所の石の下にたくさんいます。

(西岡 龍太介)



ウデマガリコカゲロウ幼虫 (絵・永田 惇人)



明石川下流の石の上にいるウデマガリコカゲロウの亜成虫です。明石川本流の他に支流の櫛谷川や伊川にも生息しています。



3本の尾の中央の本は両側の尾よりも短く、両側の尾の先には帯紋があります。

サホコカゲロウ

佐保小蜉蝣

神 明

Baetis sahoensis

コカゲロウ科 コカゲロウ属

北海道、本州、四国、九州

7~8 mm

幼虫は平地の上流~中流にかけて広く分布していますが、明石川水系では中流~下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。流れが早い浅い場所の石の下にいて、よくウデマカリコカゲロウと一緒にいます。

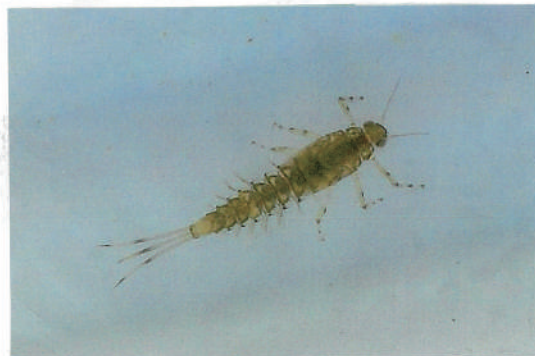
(駒板なみ)



サホコカゲロウ幼虫 (絵・駒板なみ)



明石川中流の石の下にいたのを捕まえたサホコカゲロウの若齢幼虫です。明石川本流の他に支流の櫛谷川や伊川にも生息しています。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりやや短く、まん中あたりに3本とも帯斑があります。

シロハラコカゲロウ

白腹小蜉蝣

神

Baetis thermicus

コカゲロウ科 コカゲロウ属

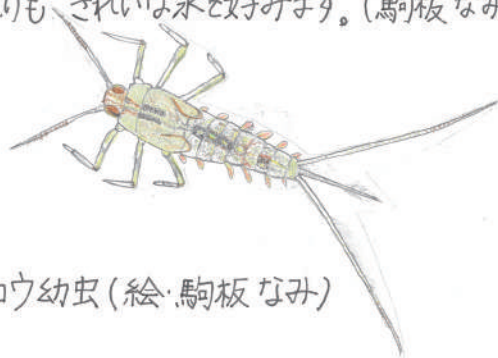
北海道、本州、四国、九州

8mm

エカ虫は、付着藻類などを食べています。

幼虫は山地～平地の上流～中流にかけて広く分布していますが、明石川水系では源流～中流や支流の櫛谷川や福知川源流などにも生息しています。

流れが早い場所の石の下にいて、ウデマガリコカゲロウやサホコカゲロウよりもきれいな水を好みます。(駒板 なみ)



シロハラコカゲロウ幼虫 (絵・駒板 なみ)



明石川中流の石の下にいたのを捕まえたシロハラコカゲロウの若齢幼虫です。明石川本流の他に支流の櫛谷川や福知川にも生息しています。



3本の尾の中央の1本は両側の尾よりかなり短く、尾に帯斑がありません。

オトゲエラカゲロウ

大 棘 鯢 蜉 蝣

神

Thraulius grandis

トビイロカゲロウ科 トゲエラカゲロウ属

本州、四国、九州、沖縄

1 cm 兵庫県要注目
神戸市Bランク

丘陵地の落ち葉が溜まる流れのゆるやかな細流といった特殊な環境に生息するカゲロウで、明石川水系では支流の蛇谷川の源流付近で生息を確認しました。

頭は四角形で体は平たく、フサフサした鯢が特徴です。

(西岡 龍之介)



オトゲエラカゲロウ幼虫 (絵、弓削 朱花梨)



ゆるやかな細流や水溜まりの落ち葉の中など特殊な環境で生息しているカゲロウで、明石川支流の蛇谷川の源流付近にもいました。



流れのすぐ側の水溜まりのような止水環境に生息しているので、酸素を効率良く取り込むために鯢が発達しています。

オナシカワゲラ属 （ネ申）

尾無川 螻蛄

Nemoura sp.

オナシカワゲラ科 オナシカワゲラ属

北海道、本州、四国、九州

8 mm

幼虫は、川底の落ち葉などを食べています。

幼虫は山地～平地の上流～中流にかけて分布していますが、明石川水系では本流の原流や支流の福知川原流などにも生息しています。

名前の通り、成虫ではほとんど尾が見えませんが、幼虫の時には長い尾があります。 （宮本 彩音）



オナシカワゲラ属幼虫（絵、宮本 彩音）



明石川支流の福知川原流の石の下にいるのを捕まえたオナシカワゲラ属の幼虫です。明石川水系の原流の細流に生息しています。



オナシカワゲラ属は、他のカワゲラの仲間と比べて小さく、落ち葉などを食べる草食性です。

コガタシマトビケラ

小型 縞飛 虻

神 明

Cheumatopsyche brevilineata

シマトビケラ科 コガタシマトビケラ属

北海道～沖縄

7 mm

幼虫は山地や平地の上流～下流や湖などに広く分布していて、明石川水系では源流～下流や支流の櫛谷川や伊川などにも生息しています。

流れがある川底の石の下に巣を作り、流れてくる藻類などを食べています。(中 初音)



幼虫



成虫

コガタシマトビケラ (絵・弓削 朱花梨)



コガタシマトビケラの幼虫は、頭の前部分が凹んでいるので、他のシマトビケラと見分けることができます。



明石川中流の石の下にいるのを捕まえた幼虫です。時期や場所が合えば、とてもたくさん捕れます。

ハイロゲンゴロウ

灰色 源五郎

神 明

Eretes sticticus

ゲンゴロウ科 ハイロゲンゴロウ属

北海道～南西諸島

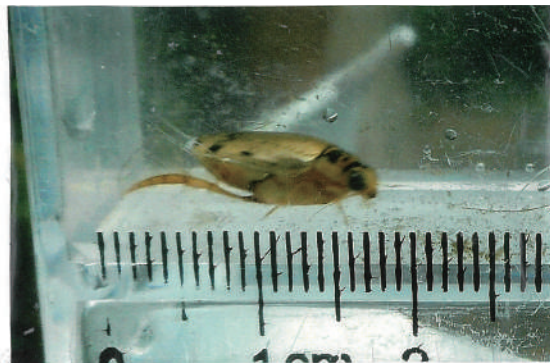
1.2cm～1.4cm

明石川水系では、明石川中流や櫛谷川や田んぼや水路などにおいて、水から出てすぐに飛ぶことができるので時には雨の後にできた水溜まりでも見かけることがあります。

ハイロゲンゴロウは、捕まえて手のひらに乗せて「ブブブ」と震動を感じたら、それが飛び立つ合図です。(和田勇翔)



ハイロゲンゴロウ 成虫 (絵・和田勇翔)



田んぼで捕まえたハイロゲンゴロウの成虫です。田んぼやプールなどの開けた場所にも多くいます。



明石川中流の流れが弱い淀みの茂みで捕まえたハイロゲンゴロウの成虫です。1匹捕れると次々に見つかることが多いです。

コガムシ

小牙虫

神 明

Hydrochara affinis

ガムシ科 コガムシ属

北海道～沖縄県

1.6～1.8 cm

情報不足

幼虫は肉食で、流れのない田んぼや水路にいて、成虫は主に草食で田んぼや水路の他に明石川水系の中流～下流の流れが弱い淀みの草が茂った場所にもいます。

生息数はガムシより多いですが、ヒメガムシやマメガムシよりは少ないです。

幼虫にかまれると痛いです。(駒板 なみ)



幼虫



成虫

コガムシ (絵: 駒板 なみ)



明石川中流近くのナセーの横の田植えが終わった田んぼにいたコガムシの幼虫です。たくさんいました。



明石川中流の流れが弱い淀みの茂みにいたコガムシの成虫です。足が赤いです。

ミナミタガイ

南田貝

神

Beringiana fukuharai

イシガイ科 ドブガイ属

西日本各地

10 cm

神戸市Cランク

明石川水系では、本流や支流ではなく、明石川につながる用水路や田中川用水路、平野大池用水路各など、さまざまな場所の用水路に生息しています。

また、ミナミタガイが生息しているほとんどの用水路には、タイリクバラタナゴも生息しています。

捕れる貝は、成貝～未成貝がほとんどで、幼貝はほとんど見つからずに餌です。(西岡 龍文介)



ミナミタガイ (絵: 徳田 梨花)



田中川用水路で捕ったミナミタガイの成貝です。ドブガイの仲間で、名前の通り用水路のドブの中にいました。



同じ場所で別の日に捕った別個体のミナミタガイです。右上の貝はマツカサガイです。

イシガイ

石貝

神

Nodularia douglasiae

イシガイ科 イシガイ属

本州、四国、九州

9cm

兵庫県Cランク

神戸市Bランク

明石川水系では、中流で合流している用水路の1ヶ所のみで生息を確認しています。

その場所は石少底でオイカワやカマツカやヨシボリなどが生息しています。

捕れるイシガイは成貝もいますが小さな幼貝もいて、子孫を増やしています。(和田 勇翔)



イシガイ (絵・北井 蒼大)



明石川中流の明石川につながる用水路で捕ったイシガイの幼貝です。たくさんいました。明石川水系でイシガイの生息を確認できているのは、この用水路だけです。



イシガイの未成貝～成貝です。この用水路にはたくさん生息しています。

マツカサガイ

松笠貝



Pronodularia japonensis

イシガイ科 マツカサガイ属

北海道、本州、四国、九州

6cm

準絶滅危惧

明石川水系では、支流の田中川の用水路に点在して生息しています。

田中川用水路には、ミナシメダカやタイリクバラタナゴが多く生息し、ヤリタナゴも確認しています。

マツカサガイは捕れる貝は成貝が多く幼貝は少ないです。生息している箇所が少しずつ減っています。(西岡 龍介)



マツカサガイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川用水路で捕ったマツカサガイの未成貝～成貝です。幼貝が少なくて心配です。



田中川用水路でも場所によってはマツカサガイの幼貝が捕れる箇所もあります。

マシジミ

真 蜆

神

Corbicula leana

シジミ科 シジミ属

本州～九州

3cm

絶滅危惧II類

兵庫県要注目
神戸市Cランク

明石川水系では、中流で合流しているイシガイのいる明石川用水路でマシジミの生息も確認しています。

外来種のタイワンシジミは明石川水系のいろんな場所で見つかりますが、マシジミは今のところこの場所と田中川用水路だけでしか見つかりません。

捕れるマシジミは成貝が多いですが小さな幼貝もいて、増えています。(駒板なみ)



マシジミ (絵・人見 歩)



明石川中流につながる明石川用水路で捕ったマシジミの幼貝です。砂の中にいました。



マシジミの未成貝～成貝です。明石川用水路では増えています。

台湾シジミ

台湾蜆

神明

Corbicula fluminea

シジミ科 シジミ属

本州～九州

3cm

総合対策外来種 **兵庫県警戒種**
その他の総合対策外来種 **神戸版ブラックリスト**
外来生物種

明石川水系では、本流や支流、用水路など様々な場所に生息していますが、特に小さな用水路に多いです。

底に泥が溜まっていたり、あまりきれいではない用水路にシジミ貝が大量にいる場合は、台湾シジミの可能性がとても高いです。

「まずい」と言われていて、茹でたものを味付けせずに食べる少し泥臭いですが、甘辛く佃煮にすると、とてもおいしいです。(駒板 なみ)



台湾シジミ (絵・駒板 なみ)



明石川水系の平野大池用水路で台湾シジミを含めた二枚貝の調査をしているところです。



平野大池用水路でも、たくさんの台湾シジミが見つかれています。

アカエイ

赤 鱒

明

Dasyatis akajei

アカエイ科 アカエイ属

日本各地沿岸

100cm

成魚は砂や泥の海底に生息していますが、幼魚は砂浜近くのとても浅い海や河口でも見られ、明石川や福田川の河口でもよく見られます。
尻尾のトゲには強い毒がありますが、身は食用になります。
卵胎性といって卵ではなく、そのまま幼魚を産みます。

(西岡 龍之介)



アカエイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣りをしている時に現れたアカエイの幼魚です。



釣りをしている足元を ゆうゆうと泳いで行きました。

イセゴイ

伊勢鯉

明

Megalops cyprinoides

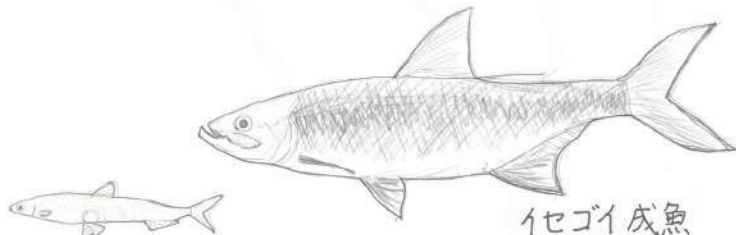
イセゴイ科 イセゴイ属

太平洋の暖海沿岸地域

1 m

別名パンフィクターホンとも呼ばれ、小魚や甲殻類を食べる肉食性の海水魚で、幼魚は汽水域〜淡水域に進入します。

イセゴイは、ニホンナギと同じようにレプトケファルス幼生からエカ魚になり、そのレプトケファルス幼生を2022年11月に明石川下流の嘉永橋付近で捕まえ、2023年11月にも明石川下流の伊川合流点付近で捕まえました。(藤澤 太一)



イセゴイ成魚

イセゴイのレプトケファルス幼生

(絵: 弓削 朱花梨)



2022年11月に明石川下流の嘉永橋付近で初めて捕まえたイセゴイのレプトケファルス幼生です。



翌年の2023年11月にも明石川下流の伊川合流点付近でイセゴイのレプトケファルス幼生を捕まえました。

ニホンウナギ

日本鰻

明神

Anguilla japonica

ウナギ科 ウナギ属
北海道より南

IUCN絶滅危惧IB類 1m 兵庫県Cランク
神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川上流〜中流は数が少ないですが成魚が多く、下流〜河口は数が多いたが成魚が少なく幼魚が多いです。

捕まえてケースに入れると後ろに後退し尾びれから逃げます。

夜行性で昼間は大きめの石の下や石少の中にかくれています。

生命力の強い魚ですが、お腹が弱点でお腹を強く握ると弱って死んでしまうので注意が必要です。(中 初音)



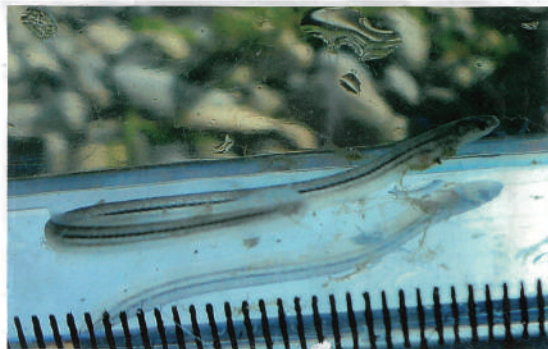
ニホンウナギ (絵: 弓削朱花梨)



明石川中流で捕まえたニホンウナギの幼魚です。石の下にいました。



明石川支流の伊川の岩かげから現れたニホンウナギの成魚です。すぐにかくれました。



シラスウナギからクロコに成長したニホンウナギの幼魚です。下流～河口にたくさんいます。



明石川下流で捕れたニホンウナギの幼魚です。明石川下流には、このサイズのニホンウナギの幼魚がたくさんいます。



玉津第一小学校で飼っていた1代目のニホンウナギの成魚です。ヌマエビを食べてお腹がいっぱいになると、上を向いて白いお腹を見せて寝ていました。



明石川下流で捕れたニホンウナギの成魚です。大きな石の下や捨てられたパイプの中にかくれています。

アユ 明 神

Plecoglossus altivelis

アユ科 アユ属

北海道西部より南の日本各地

15cm～30cm

神戸市Cランク

明石市Bランク

明石川水系では3～6月頃に下流に姿を見せます。

明石川下流では、時々幼魚が見られますが、中流まで遡って来ることは、ほとんどありません。

岩や石の表面に生えた藻やこけを食べますが、水生昆虫なども食べます。

群れを作るアユと群れを作らず単独でなわばりを持つアユの2種類がいて、なわばりアユは他のアユが自分のなわばりに入ると激しく攻撃します。(佐野こころ)



アユ (絵: 弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていたアユの未成魚で、なわばり争いをしているところです。藻類の他に川魚用の粒エサやヌマエビの幼体もよく食べていました。



神戸市の都市河川の都賀川で捕まえたアユの成魚です。12月なのに、まだ中流にいました。



神戸市の都市河川の住吉川でアユの成魚が群れて石に生えた藻類を食べている様子です。住吉川のアユはあまりなわばりを持ちません。



高知県研修の時に仁淀川の河原に増水後に取り残された石にたくさんのアユのはみあとを見つけました。これを見ただけで、仁淀川にはアユがたくさんいることがわかります。



神戸市の都市河川の都賀川下流で婚姻色のアユの成魚が群れて泳いでいる様子です。



都賀川の河口付近で婚姻色のまま死んでいたアユの成魚です。婚姻色は体が黒くなり、ひれやお腹が橙色になります。



揖保川中流で揖保川漁協の方々にアユの友釣りの
実習をさせていただきました。



おとリアユ(上)に天然アユが攻撃して、天然アユ(下)の
背中に釣針がかかりました。とても引きが強かったです。



友釣りで釣れた天然アユです。2匹釣れました。



上の2匹が天然アユで、下の1匹は養殖のおとリアユです。
天然アユの方が細身できれいです。

カマツカ

鎌柄

(神)(明)

Pseudogobio esocinus esocinus

コイ科 カマツカ亜科 カマツカ属

岩手県、山形県より南の本州、四国、九州、壱岐

20 cm

明石市 Bランク

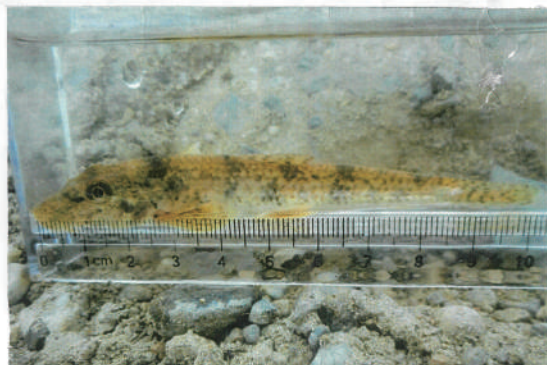
流れに変化がある場所の川底に溜まった砂の上や
石砂の中にあることが多いです。
感じがニゴイに似ていて、口は砂の中の小さな生き物を
食べやすいように下を向いていて、口の先を突き出して砂
ごと吸い込むようにして食べます。
川底が石砂から泥に変わるといなくなります。
最近では増えています。(人見歩)



カマツカ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川の砂の中にいるのを捕まえました。
明石川水系で増えています。



明石川中流の砂の中をタモ網ですくって捕まえたカマツカ
の成魚。砂の中には幼魚～成魚までたくさんいま
いた。

コウライモロコ

高麗諸子

神 明

Squalidus chankaensis subsp

コイ科 カマツカ亜科 スゴモロコ属

中部、本州瀬戸内側、四国北東部

9cm~10cm 神戸市Cランク

明石市Bランク

明石川水系の中流~下流や支流の伊川に生息しています。

以前はほとんど捕れていませんでしたが、2015年の夏頃から明石川下流で成魚が捕れ、2015年の秋には支流の伊川で幼魚が捕れるようになり、今では中流にも生息しています。

明石川水系のコウライモロコは増えたり減ったりの増減を繰り返していて、定着せずとても不安定です。

現在も中流~下流にいますが、幼魚の群れは見られなくなりました。(西岡 龍え介)



コウライモロコ (絵・弓削朱花梨)



明石川下流で捕まえたコウライモロコの成魚です。本流の流れが弱い淀みにいました。



明石川中流で捕まえたコウライモロコの幼魚です。この幼魚も本流の流れが弱い淀みにいました。



明石川下流で捕まえたコウライモロコの成魚です。
背中に不規則な斑点があります。



明石川下流につながる水路で捕まえたコウライモロコの成魚です。体高が高い感じがです。



同じモロコでもタモロコと違ってコウライモロコは
カマツカの仲間で、カマツカと金属的な感じ
がよく似ています。



冬の明石川中流で捕まえたコウライモロコの幼魚
です。時にはこんなに捕れます。

コウライニゴイ

高麗似鯉

明神

Hemibarbus labeo

コイ科 カマツカ亜科 ニゴイ属

中部地方～山陽地方、四国

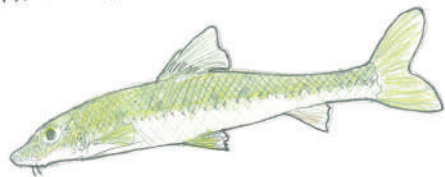
50cm

コイよりも細長くて、目をキョロキョロ動かすことができるので、時にはウINKをしているように見ることがあります。

口が下向きについて、石少底の生き物を食べますが、大きくなると、オオクチバスのようにオイカワなどを追いかけて食べます。

以前は明石川中流～下流に生息していましたが、今は中流ではほとんど見なくなりました。

初夏に下流で幼魚の群れが見られます。(西岡龍之介)



コウライニゴイ (絵、弓削 朱花梨)



以前に明石川中流で捕まえたコウライニゴイの幼魚です。最近では明石川中流では、ほとんど捕れなくなりました。



玉津第一小学校の水槽で飼っていたコウライニゴイの未成年魚です。ヌマエビをあげると、とてもよく食べていました。

コイ

鯉

(神)(明)

Cyprinus carpio

コイ科 コイ亜科 コイ属

日本全国

80cm

兵庫県注意種

外来種

ア7アリウム 要注意種 (オリジナル名称)

昔の人は川で育ったコイを捕ってふつうに食べていたので、コイの成魚が増えすぎることなく、小魚が多く多様性が保たれていました。

しかし、今は誰も捕って食べなくなり成魚が増えています。

コイは雑食で大きくなるとオオクチバスやブルーギルと同じように魚の卵や小魚や水生昆虫を食べてしまうので成魚だけを駆除しています。(中 初音)



コイ (絵 弓削 朱花梨)



産卵場所に向かうため 明石川支流の伊川の浅瀬を遡るコイの成魚です。



明石川中流で捕まえたコイの幼魚です。フナ類に似ていますが、ロビゲの有無や背びれの形や、うろこの黒いふちどりなどで見分けられます。

ゲンゴロウブナ

源 五郎 魚付

神 明

Carassius cuvieri

コイ科 コイ亜科 フナ属

本来は琵琶湖固有種

40 cm

国内外来種

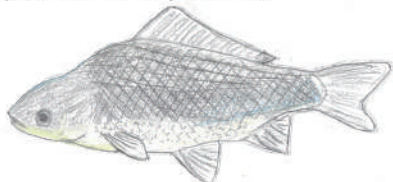
ギンブナと似ていますが、ギンブナよりも大きくなり体高が高く、目の位置がギンブナより低く下を向いています。

明石川ではギンブナよりも下流や池に生息しています。

元々、明石川水系にはいなかった国内外来種なので、ギンブナを守るために馬区除をしています。

ヘラブナやカワチブナとも呼ばれます。

最近は減ってきました。(中 初音)



ゲンゴロウブナ(絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたゲンゴロウブナの幼魚です。
下流や池につながる用水路に多いです。



明石川支流の伊川で捕まえたゲンゴロウブナの成魚です。在来種のギンブナを守るために馬区除をしています。

ギンブナ

銀 鮒

(神)(明)

Carassius auratus langsdorfii

コイ科 コイ亜科 フナ属

日本全国

30cm 神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川水系の中流～下流や用水路、明石川水系につながっている池などに生息し、日本では北海道から沖縄まで全国に広く分布しています。

明石川水系には絶滅危惧種のギンブナと国内外来種のゲンゴロウブナの2種類のフナが生息していて、ギンブナはメスしかいないと言われています。(和田勇翔)



ギンブナ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流で捕まえたギンブナの幼魚です。
ゲンゴロウブナより体高が低いです。



平野大池用水路で捕まえたギンブナの未成魚です。
平野大池用水路や明石川ではギンブナが増えました。

ヤリタナゴ

槍鰯



Tanakia lanceolata

コイ科 タナゴ亜科 アブラボテ属

本州、四国、九州

準絶滅危惧
明石市Aランク

兵庫県Bランク
神戸市Bランク

9cm

明石川では5年以上確認が無く、絶滅したのかと思われていましたが、数年前に支流の田中川用水路で神戸市環境局と協働でアカミガメを防除するためのしかけのカゴに、ヤリタナゴのオスの成魚が入っていました。用水路を調査するとミナミタガイやマツカサガイも見つかりました。また、この場所にはタイリクバラタナゴもたくさんいるので、競合を避けるためにタイリクバラタナゴの駆除をしています。(西岡 龍介)



(絵: 弓削 朱花梨)



田中川の用水路で、カメ捕獲用のしかけのカゴに入っていたヤリタナゴのオスの成魚です。



観察ケースに入れて観察した用水路のヤリタナゴです。用水路の水がにごっていて見えにくいです。

タイリクバラタナゴ

大陸薔薇鰾

神

Rhadeus ocellatus ocellatus
コイ科 タナゴ亜科 バラタナゴ属

日本全国

総合対策外来種 兵庫県注意種

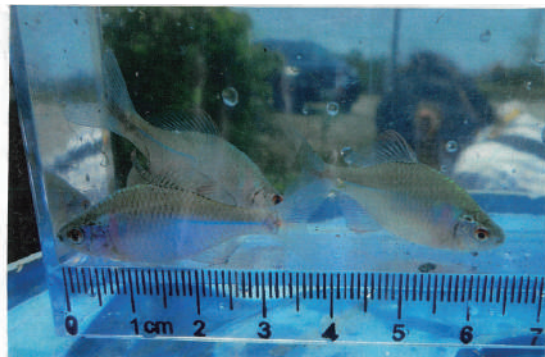
重点対策外来種 神戸版ブラックリスト

7cm 外来生物種

明石川の本流にはほとんどいませんが、明石川につながっている池や用水路で見られます。特にミナタガイやマツカサガイなどの二枚貝がいる支流の田中川用水路では、とても増えています。中国原産のタイリクバラタナゴは、日本原産のニッポンバラタナゴと交雑することで、ニッポンバラタナゴを絶滅の危機に追い込んでいます。(徳田桜花)



タイリクバラタナゴ(絵・弓削朱花梨)



田中川用水路で捕まえたタイリクバラタナゴの成魚です。大型の二枚貝のいるところには、必ずと言っていいくらいタイリクバラタナゴがいます。



タイリクバラタナゴは、とても飼いやすく二枚貝と一緒に入れると簡単に産卵シーンが観察できます。



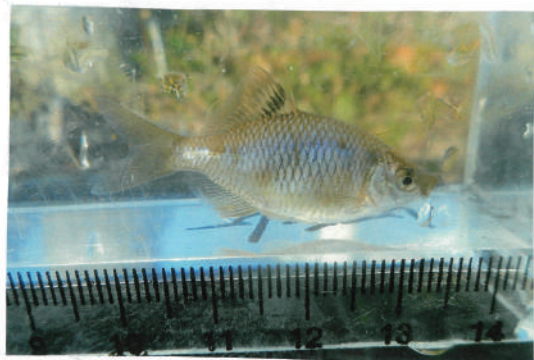
田中川用水路では多い時はこれだけたくさんのタイリクバラタナゴの幼魚～成魚が捕れます。



田中川用水路にはタイリクバラタナゴやヤリタナゴが産卵するミナミタカイやムツカサカイも生息しています。



1ヶ月以上泥抜きをしてタイリクバラタナゴを田煮にしました。内臓は苦くなく骨もやわらかくておいしかったです。



増水後の明石川中流で捕れた個体です。田中川用水路のタイリクバラタナゴとは感じが少し違ってました。

オイカワ

追河

神 明

Opsariichthys platypus

コイ科 クセノキアリス亜科 ハス属

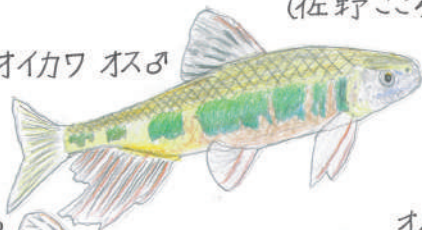
本州 四国、九州

15cm

明石川の橋の上から見ると、川底の石に生えたコケを身をひる返して食べ、キラキラと光る様子が見られます。昆虫やエビも大好きで、オスの婚姻色はとても美しく、明石川で一番多い魚で、シンボルフィッシュになっています。群れをつくり、稚魚や幼魚は特に多く、とても増えています。

(佐野ころ)

オイカワ オス♂



オイカワ メス♀



オイカワ 幼魚



(絵・弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていた少し婚姻色が出ているオスの成魚です。



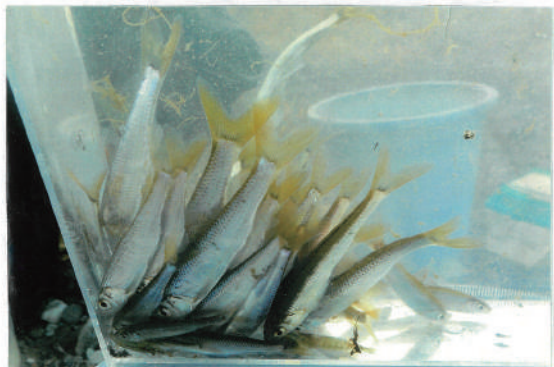
明石川中流でつかまえた成魚です。明石川で一番多い魚です。



オйкаワの幼魚の中にあるミナメダカの成魚です。(指先)
オйкаワの幼魚をメダカだと思っている人は意外に多いです。



田んぼにつながっている用水路でつかまえた
オйкаワの変異の幼魚です。用水路で見つかります。



冬の明石川水系でつかまえたオйкаワの幼魚～未成魚です。
まとまっているので、ひとすくいでもたくさんとれます。



明石川支流の田中川で釣りでつかまえたオйкаワ
のオスの婚姻色の成魚です。とてもきれいです。

カワムツ

川 鱈



Nipponocypris temminckii

コイ科 クセノキプリス垂科 カワムツ属
静岡県より西の本州、四国、九州

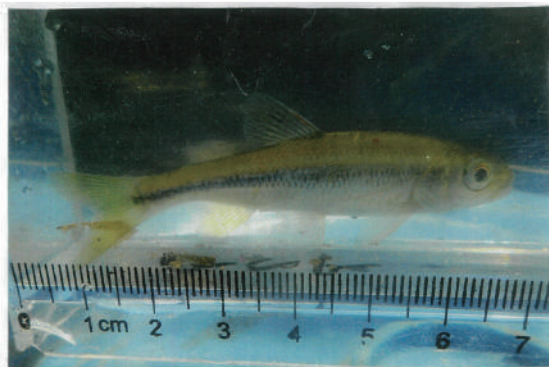
15 cm

アマムツととてもよく似ていますが、アマムツよりも口の先が丸くなっていて、体の黄色が強いです。アマムツと同じく流れがゆるやかで草が多く茂っている場所を好みますが、生息域はアユがすんでいるような川の上流～中流で、オイカワやアマムツよりも水が冷たく、きれいな所を好みます。

明石川では上流の押部谷付近にすんでいます。
2021年7月の大雨の後に、私たちの校区内の明石川中流で初めて捕れました。(人見歩)



絵(弓削朱花梨)



明石川上流の支流の蛇谷川で捕まえたカワムツの幼魚です。たくさんいます。



明石川中流で捕まえたカワムツの成魚です。いつもは上流にいますが、大雨の増水の後に流されてきたのを捕まえました。

ヌマムツ

沼 鯉

神 明

Nipponocypris sieboldii

コイ科 クセノキアリス亜科 カムツ属

静岡県より西の本州、四国、九州

15 cm 明石市Bランク

カムツととてもよく似ていますが、カムツより口の先がとがっていて、ひれの赤みが強いです。婚姻色のオスはきれいです。

明石川の本流よりも流れが弱くて草が多く茂っている支流の福知川や櫛谷川や田中川、用水路などに生息しています。福知川のように増えている場所もあれば田中川用水路のように減っている場所もあります。

(大浦 結那)



ヌマムツ 幼魚

(絵: 弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川で捕まえた婚姻色のヌマムツのオスの成魚です。



ヌマムツの成魚です。田中川で生きたミズを餌にして釣りで捕まえました。



福知川で捕まえたヌマムツの若い成魚です。
明石川支流の福知川にはたくさん生息しています。



明石川中流で捕まえたオイカワとヌマムツの幼魚です。左がオイカワで右がヌマムツです。



田中川用水路で捕まえた背骨が曲がった幼魚です。
変異個体は用水路に多いです。



田中川用水路で捕まえたヌマムツの老成魚です。
少し弱っていて簡単に捕れました。

タモロコ

田 諸子

神 明

Gnathopogon elongatus elongatus

コイ科 バルブス亜科 タモロコ属

関東より西の本州 四国

8cm~10cm

タモロコは、尾びれのつけ根に黒い斑点があるのが特徴で、これはムカ魚の時からはっきりわかります。

茂みにかくれていることが多いですが、時には石の下にかくれたり、用水路では泥の中にも潜ります。

明石川水系では中流に多いですが、支流や用水路にも多く生息しています。

モツゴとよく似ていますが、尾びれのつけ根の黒い斑点の他にヒゲがあることや口が下を向いていることなどでも見分けることができます。(宮本 彩音)



タモロコ (絵、弓削 朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていたタモロコの成魚です。粒えびの他にヌマエビをあげるとよく食べていました。



明石川中流で捕まえたタモロコの成魚です。草の茂みにかくれていることが多いですが、石の下にもかくれています。



明石川中流で捕まえたタモロコの幼魚です。
小さくても尾びれのつけ根の黒い斑点がわかります。



タモロコは群れになっていることが多いので、群れを見つければ、1度にたくさん捕ることが出来ます。



明石川中流の溜まりで捕まえたタモロコの成魚のメスです。産卵前でお腹に卵を持っています。



明石川支流の田中川用水路で捕まえたタモロコの成魚です。泥の中に潜っていました。

モツゴ

持子 脂魚

神 明

Pseudorasbora parva

コイ科 ヒガイ亜科 モツゴ属

関東より西の本州、四国、九州

8cm

明石川水系では中流～下流や、池や用水路などに生息し、環境の悪化にも比較的強いです。

脂がにじんだようにキラキラと光り、見る角度によって体の色が虹色に変化します。

体側に黒い縦線があり、若い個体は濃くなります。

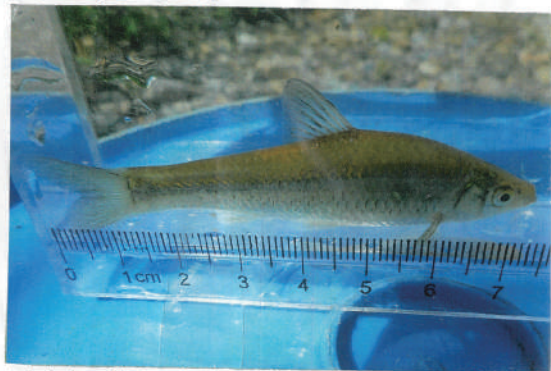
タモロコとよく似ていますが、ヒゲがないことや口が小さく上を向いていること、尾びれのつけ根に黒い点がないことなどで見分けることができます。(竹葉 真心)



モツゴ (絵・弓削朱花梨)



明石川中流で捕まえたモツゴの成魚です。脂がにじんでいるように見えることから脂魚という名前がついたという説と、メスが産んだ卵をオスが守ることから持子という名前がついたという説があります。



こちらも明石川中流で捕まえたモツゴの成魚です。明石川水系では中流の他に下流や池につながる用水路にも多く生息しています。

チュウガタスジシマドジョウ

中型筋縞泥鰌

神 明

Cobitis striata striata

ドジョウ科 シマドジョウ亜科 シマドジョウ属

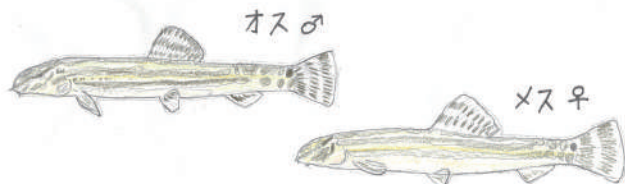
本州、四国の瀬戸内海側

絶滅危惧II類 10 cm 神戸市Bランク
明石市Aランク

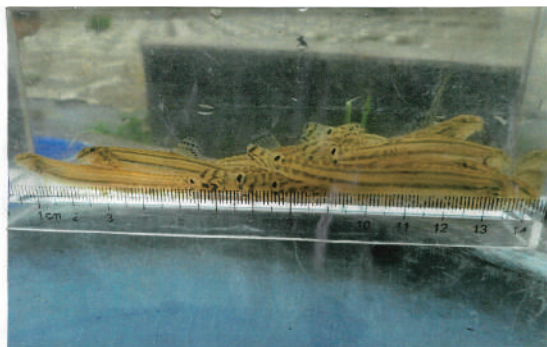
姿や形はオオシマドジョウに似ていますが、模様が点ではなく線なので見分けることができますが、幼魚は点なので注意が必要です。

よく砂に潜り、きれいでゆるやかな流れのある水と、きれいな砂を好み、水が汚れたり泥が溜まるといなくなります。

増えたり減ったりを繰り返しています。(西岡 龍え介)



チュウガタスジシマドジョウ (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の流れの弱いきれいな砂底で捕れたチュウガタスジシマドジョウです。捕れる時にはたくさん捕れます。明石川支流の伊川の明石市側でも捕れました。



玉津第一小学校で飼っていたチュウガタスジシマドジョウです。スジシマドジョウ中型種からチュウガタスジシマドジョウに分類されました。

ドジョウ

泥魚

神 明

Misgurnus anguillicaudatus

ドジョウ科 シマドジョウ亜科 ドジョウ属

日本全国

準絶滅危惧
兵庫県要注目

15cm

神戸市Cランク
明石市Aランク

明石川上流～下流に生息していますが、本流よりも支流の細流や用水路などに多く、チュウガタスジマドジョウと違って流れのあまりない水はそれほどきれいなくても泥の多いプラントンがたくさんいるような場所に生息しています。

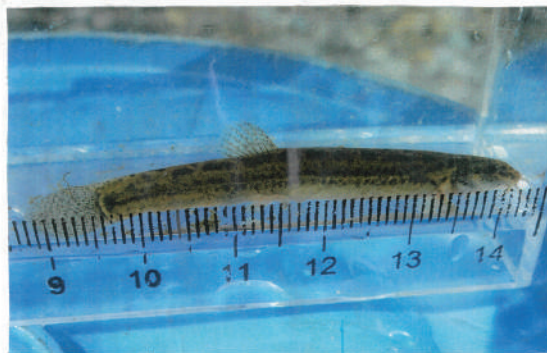
最近、明石川中流～下流で増えてきましたが、食用や生き餌用に輸入された中国大陸由来の外来種のドジョウも多いです。
(佐野こころ)



ドジョウ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川水路で捕まえたドジョウの成魚のペアです。田中川用水路には ミナメダカやニ枚貝がたくさんいて、そういう場所に生息しています。



明石川中流の石少の中を探って捕まえたドジョウの未成魚です。明石川中流～下流でも捕れることが多くなりましたが、中国大陸由来の外来種のドジョウも多いです。

ロングノーズガー

神

Lepisosteus osseus

ガー科 レピソステウス属

本来はカナダ〜メキシコ

特定外来生物 60cm〜120cm

総合対策外来種

その他の定着予防外来種

2012年頃に当時のアクアリウムメンバーが明石川支流の伊川でタモ網で捕まえました。

「木の枝が動いている!!」と思ってタモ網で捕ったらロングノーズガーだったそうです。

捕まえた時には50cmもあって、多分食いきれなくなった人が逃がしたものだと思います。

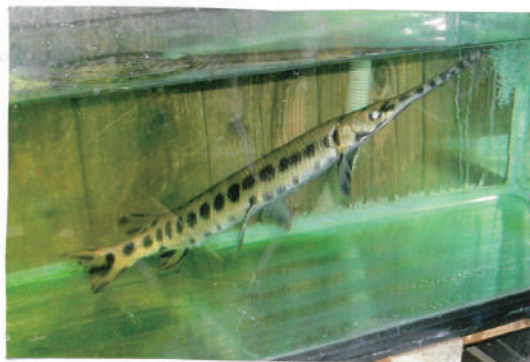
最後まで責任を持って飼ってほしいです。(西岡 龍介)



ロングノーズガー(絵、弓削 朱花梨)



明石川支流の伊川で捕まえたロングノーズガーです。ガーが明石川水系にいたことに驚きました。



ロングノーズガーは、タイワンドジョウやカムルチーと同じように空気呼吸ができるので、水中の酸素が少なくても生きていけます。

タイワンドジョウ

台湾泥鰌

(明) (神)

Channa maculata

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属

和歌山県、兵庫県、香川県、沖縄県

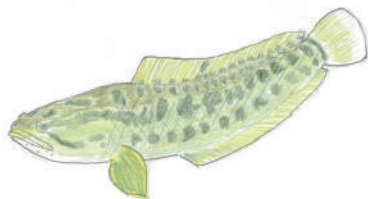
30cm～60cm

外来種

全国的にはカムレチーの方が多のですが、明石川水系ではカムレチーよりもタイワンドジョウの方が多いです。

以前は明石川中流～下流にかけて多く生息していましたが、今は下流や下流で合流している支流の伊川に少し生息する程度に減ってきました。

小さな斑紋が並んで線のように見えるのが特徴です。
(鈴木詩)



タイワンドジョウ (絵・弓削朱花梨)



以前に明石川中流で捕まえたタイワンドジョウの幼魚です。堰の上の流れのない茂みにたくさんいました。



明石川下流で合流している伊川で捕まえたタイワンドジョウの未成魚です。今は明石川下流が下流で合流している伊川でしか捕れなくなりました。

カムルチー

神(明)

Channa argus

タイワンドジョウ科 タイワンドジョウ属
北海道、本州、四国、九州

80 cm

外来種

明石川水系では数が少なく、2019年3月に平野大池用水路で初めて捕獲しました。2023年9月には明石川下流で2匹目が捕れました。

タイワンドジョウは、頭から尾びれまで小さな斑点が一列に並んで線のように見えますが、カムルチーは斑点が大きくて所々背中からお腹にかけて斑点がつながっているように見えます。

(巨優愛)



カムルチー (絵・弓削 朱花梨)



平野大池用水路で捕まえた未成年です。藻の中にかくれていました。



明石川下流で捕まえた成魚です。茂みの中にかくれていました。

スズキ

鱸

明神

Lateolabrax japonicus

スズキ科 スズキ属

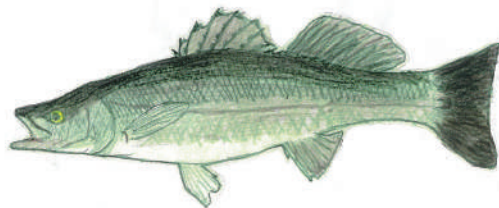
日本各地

100 cm

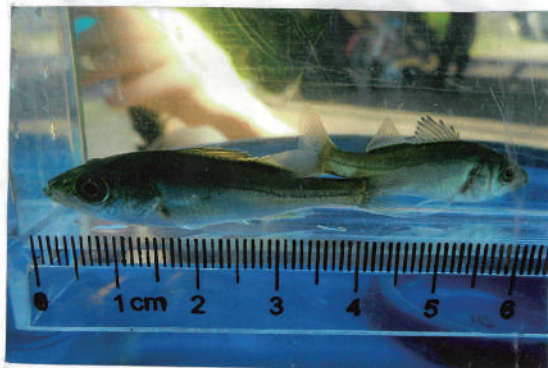
海水魚ですが、幼魚の時には川の水温が高くなる初夏～秋には川の下流の淡水域まで遡り、小魚や甲殻類などを食べて大きくなります。

明石川でも晩春から晩秋まで下流によく姿を見せ、時には支流の伊川や下流の水路にも進入します。

海にいるブラックバスという意味で、釣り人からは「シーバス」とも呼ばれています。(和田勇翔)



スズキ (絵・弓削朱花梨)



明石川下流でタモ網で捕まえたスズキの幼魚です。晩春～晩秋は明石川下流でよく姿を見ます。



明石川河口で釣れたスズキの未成年魚です。秋に河口でよく釣れます。

タイリクスズキ

大陸魚

(明)

Lateolabrax maculatus

スズキ科 スズキ属

西日本の太平洋沿岸、瀬戸内海、日本海沿岸

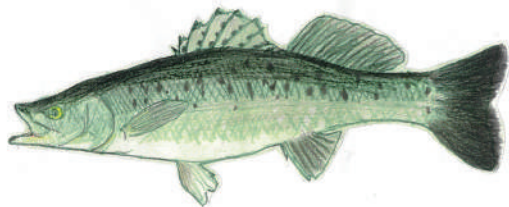
100 cm

生態系被害防止外来種

日本で養殖されているスズキのほとんどが台湾産のタイリクスズキで、スズキよりも成長が早いと言われています。

養殖用にタイリクスズキの幼魚が輸入され、主に西日本で養殖されていますが、その一部が逃げ野生化しています。

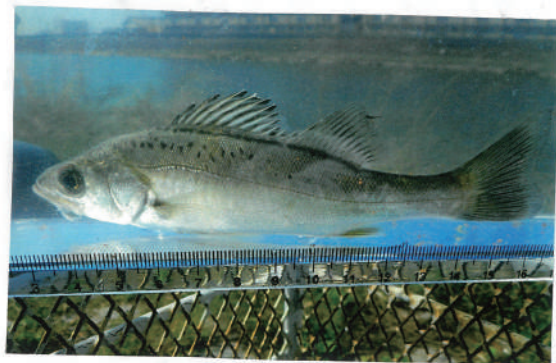
スズキととてもよく似ていて、体側にうろこよりも大きな黒点が発在する個体が多いです。(西岡 龍之介)



タイリクスズキ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口の釣りの様子です。この場所ではスズキやコヒキの他に、マハゼやクサフグなどもよく釣れます。



明石川河口で釣れたタイリクスズキの未成年体です。体側のうろこよりも大きな黒点も特徴のひとつです。

オオクチバス

大口バス

(神)(明)

Micropterus salmoides salmoides

サンフィッシュ科 オオクチバス属

放流により 日本全国

50~60cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

明石川水系には、オオクチバスもブルーギルも多くいましたが、駆除を続けた結果、共に減ってきました。

しかし、卵がブルーギルに食べられなくなったため、一時的にはオオクチバスが増えた時もありましたが現在は減っています。

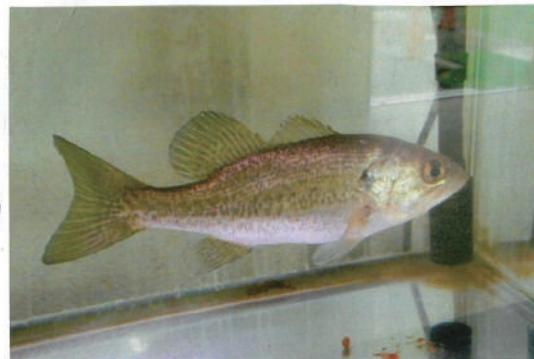
駆除をしたオオクチバスやブルーギルは、以前は美味しくいただいていたのですが、今は火田の肥料にしています。(大浦結那)



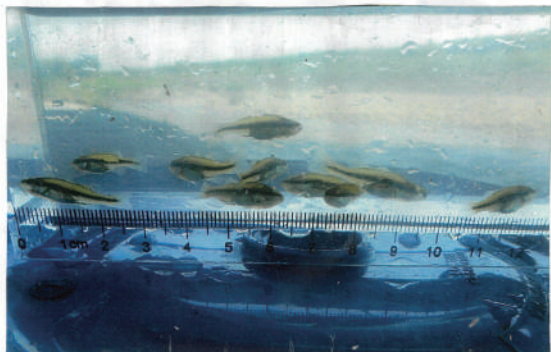
オオクチバス (絵・弓削 朱花梨)



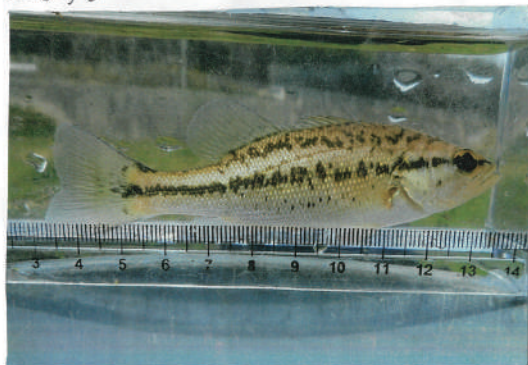
環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校の水槽で飼っている2代目のオオクチバスです。



上の個体が4年でこんなに大きくなりました。みんなに外来種のことを知ってもらうために飼っています。



明石川中流で捕まえたオオクチバスの今年生まれの幼魚です。大雨の後で増水すると上流から流されてきます。



明石川支流の福知川の源流の1つで捕れたオオクチバスの未成魚です。水がとてもきれいな場所で、ヘビトンボやカワゲラといました。



明石川支流の田中川は3面コンクリートで川に降りられぬので、オオクチバスやブルーギルを釣りでは駆除をしています。



上の場所で釣れたオオクチバスの未成魚です。生きてミズを餌にして、幼魚～成魚に近いサイズまでよく釣れます。

ブルーギル

ぶる-ぎる

神 明

Lepomis macrochirus
サンフィッシュ科 ブレーギル属
放流により日本全国

25cm

特定外来生物
総合対策外来種
緊急対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

明石川水系には、ブルーギルもオオクチバスも多くいましたが
駆除を続けた結果、共に減ってきました。

淡水魚ですが、海水～汽水にも適応していると思われ、明石
川河口で釣りをしている、ブルーギルが釣れることがあります。

もとは上皇さまが食用に持ち帰ったものなので「白身で」
とても美味しい魚で、ブルーギルとは「青いえら」という意味です。

(大浦 結那)



ブルーギル (絵・駒板なみ)



環境省と農水省に許可をもらって玉津第一小学校
の水槽で飼っているブルーギルです。



明石川支流の櫛谷川の用水路で捕まえた
ブルーギルの成魚です。明石川水系の用水路にも
こんなに大きな成体がありました。



明石川下流で捕まえた大量のブルーギルの幼魚です。
明石川下流の水路にいたブルーギルの幼魚が大雨の増水で本流に流されてきました。



ブルーギル↑とオオクチバスの幼魚のからあげです。
美味しいので以前はよく食べていました。



明石川支流の田中川は3面コンクリートで川に降りられないので餌釣りで駆除をしています。



上の場所で釣れたブルーギルの未成年魚です。
生きたミズを餌にして、幼魚～成魚までよく釣れます。

クロホシフエダイ

黒星笛鯛

(明)

Lutjanus russellii

フエダイ科 フエダイ属

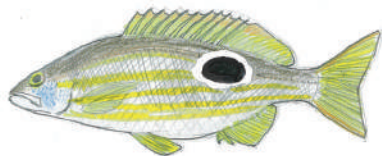
神奈川県、相模湾より南

30～50 cm

インドから西太平洋の熱帯域の沿岸に生息する海水魚ですが、幼魚は川を遡り淡水域まで進入します。

体側の後方に黒斑があるのが特徴で、食べても美味しい魚です。

明石川河口の汽水域で釣れました。(西岡 龍介氏)



クロホシフエダイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたクロホシフエダイの幼魚です。上から見ても体側後方の黒斑が目立ちます。



横から見ると大きな黒斑があり、穴があいているように見えて印象的です。

クロホシマンジュウダイ

黒星饅頭魚

(明)

Scatophagus argus

クロホシマンジュウダイ科 クロホシマンジュウダイ属

和歌山県より南～インド太平洋

インド洋や太平洋の熱帯域

35cm

幼魚は一部赤色ですが、成長するとなくなります。
内湾や汽水域に生息していて幼魚は淡水域まで進入します。
成魚は食用魚として、幼魚は学名のスカットファークスという名前で観賞魚として売られています。

ほぼ毎年、明石川下流～河口で秋～冬にかけて幼魚が捕れますが、2023年9月には1度に幼魚40匹が捕れました。

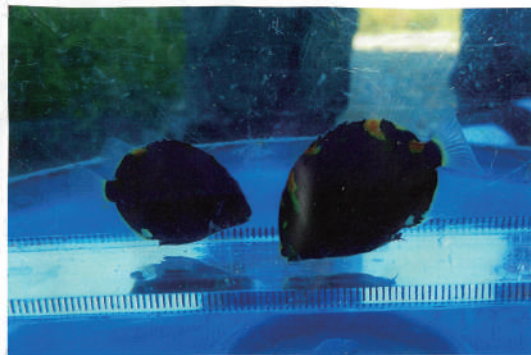
(西岡 龍介)



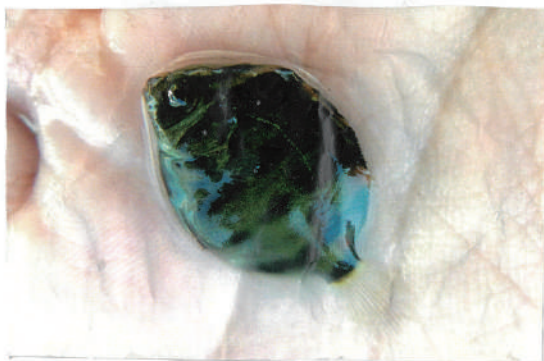
クロホシマンジュウダイ (絵: 永田 惇人)



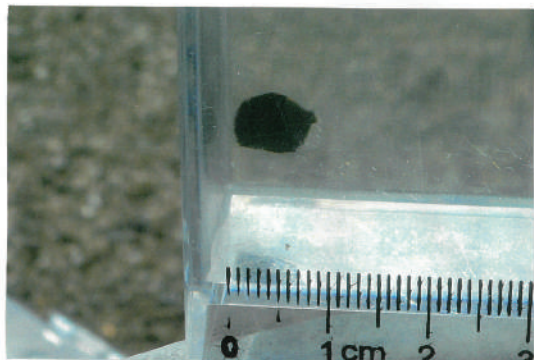
明石川下流の汽水域で干潮時に溜まりで捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚です。写真は飼育時の様子です。



明石川下流の淡水域で草の茂みをガサガサして捕まえたクロホシマンジュウダイの幼魚です。



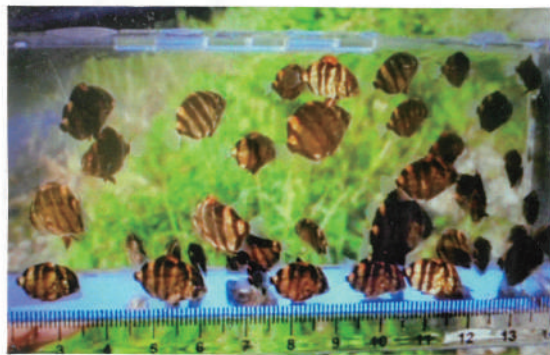
捕獲したばかりのクロホシマンジュウダイの幼魚です。
捕ったばかりは、こんな色をしています。



時にはこんなに小さなクロホシマンジュウダイの幼魚
が捕れることもあります。



玉津第一小学校で飼っていたクロホシマンジュウダイ
の幼魚です。生きたヌマエビを追いかけて食べて
いました。



2023年9月には 幼魚40匹が捕れました。
小さな幼魚や幼魚が大量に捕れるのは、近くの
海で産卵している可能性があることもわかってきま
した。

シロギス

白鯧

(明)

Sillago japonica

キス科 キス属

北海道南部より南

30cm

石少地や石少浜の続きなど、浅い海のきれいな砂底がある場所が大好きで、明石川河口もきれいな砂底が多く、夏はシロギスがよく進入します。

肉食性で甲殻類やゴカイ類を主に食べています。

明石川河口で釣れたシロギスを先輩が以前天ぷらにして食べたそうで、とてもおいしかったそうです。(西岡 龍介)



シロギス (絵・弓削 朱花 梨)



秋に明石川下流～河口で釣れたシロギスの成魚です。明石川の河口付近にもシロギスがいます。



シロギスは同じ場所にいるマハゼと姿や形や透明感がよく似ています。どちらもきれいな砂底が好きな底生魚です。

コトヒキ

琴 弾

明 神

Terapon jarbua

シマイサキ科 コトヒキ属

本州中部より南

30 cm



真上から見たコトヒキの幼魚です。身の厚さから水面観察でもコトヒキの幼魚はすぐにわかります。

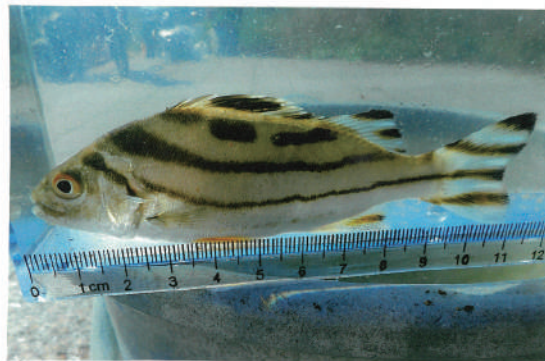
体側に曲がっている3本の縦帯線があり、明石川下流～河口や溜まりに小さな幼魚が群れていることがあります。

明石川下流の淡水域や明石川下流で合流している伊川まで遡ります。

えらぶたに刺があり、さわると痛いです。(徳田 桜花)



コトヒキ (絵、弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたコトヒキの未成魚です。えらぶたの刺に刺されると痛いです。

シマイサキ

縞伊佐幾

明神

Phycopelates oxyrhynchus

シマイサキ科 シマイサキ属

本州より南

30 cm

体側に4本の黒い線があり、口元がとがっています。
内湾や河口に生息していて、幼魚は初夏～晩秋にかけて明石川下流の淡水域まで遡ります。

川底の石のまわりやタイヤや草の茂みにかくれていることが多く、1匹捕れると近くに仲間がいて、次々に捕れます。

(西岡 龍え介)

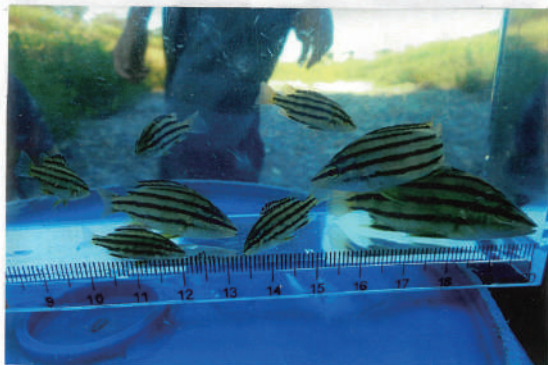


幼魚



成魚

シマイサキ(絵・弓削朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕れたシマイサキの幼魚です。
体側に4本の黒い縦線があり、上から3本目の線は口から目を通して、尾びれのつけ根まであります。



シマイサキの成魚です。食用魚として売られています。

クロダイ

黒鯛

明神

Acanthopagrus schlegelii

タイ科 クロダイ属

北海道～九州

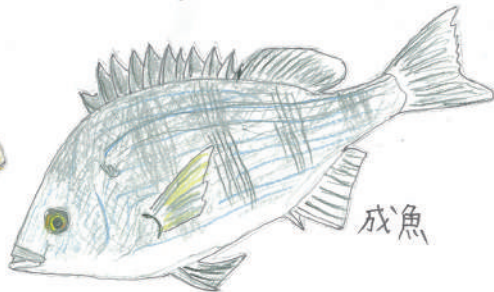
50cm

内湾～河口に生息していますが、川の水温が高くなる初夏～晩秋は明石川下流でも幼魚や成魚をよく見ます。
甲殻類や貝類の他に藻類も食べる雑食です。
釣れた時やタモ網で捕れた時は、その瞬発力の強さに驚きます。

よく似たキチヌと違って、春～初夏に産卵します。(中村 颯希)



幼魚



成魚

クロダイ (絵・写削 朱花梨)



夏の明石川下流の汽水域でタモ網で捕まえたクロダイの幼魚です。草の茂みにかくれていました。



明石川河口で釣れたクロダイの未成魚です。とても引きが強かったです。

キチヌ

黄知奴

(明)(神)

Acanthopagrus latus

タイ科 クロダイ属

千葉県、新潟県～九州

40cm

クロダイとよく似ていますが、体の色がクロダイと比べて白っぽく、腹びれと尻びれと尾びれの下部が黄色いことで見分けられます。

クロダイの産卵期は春ですが、キチヌは秋です。

クロダイと同じように初夏～晩秋は明石川下流に幼魚や未成魚が遡ります。(中村 颯希)



キチヌ(絵・弓削 朱花梨)



冬の明石川下流の汽水域で群れを追い込んでタモ網で捕まえたキチヌの幼魚たちです。



明石川河口で釣れたキチヌの未成魚です。腹びれが黄色くて体色がクロダイよりも白っぽく見えます。

ムラソイ

斑曹以

明

Sebastes pachycephalus

メバル科 メバル属

北海道南部～宮崎県までの太平洋岸
日本海沿岸、瀬戸内海、東シナ海

15cm～30cm

浅い海の岩礁に生息し、防波堤の下やテトラポットなどにもいて、
甲殻類や魚やゴカイ類を食べる肉食です。

夏～秋は岸に岩が多い明石川河口でも釣れます。

海釣りをする人には、おいしい魚としても有名です。(中村颯希)



ムラソイ (絵: 弓削 朱花梨)



ムラソイが釣れた明石川河口です。岩と岩の間に餌のアオイソメを入れて釣れました。



明石川河口で釣れたムラソイの未成魚です。
水温が高いときは河口でも釣れます。

マタナゴ

真鯿

(明)

Ditrema temminckii pacificum

ウミタナゴ科 ウミタナゴ属

関東地方より南の太平洋沿岸

25cm

漁港に係留している漁船の下や防波堤などで群れていることが多いですが、水温の高い時期には明石川の河口にもよく進入します。

卵胎生でメスが産仔した稚魚は大きく、すぐに泳ぐことができます。

タナゴという名前がついていますが、川にいるタナゴの仲間ではありません。(中村 颯希)



マタナゴ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口で釣れたマタナゴ(上)とクロダイ(下)です。どちらも同じ場所に生息していて、同じスズキ目なので体形がよく似ています。



明石川河口で釣れたマタナゴの成魚です。明石川河口にもたくさんのマタナゴがいます。

メジナ

眼 仁 奈

明

Girella punctata

イスズミ科 メジナ属

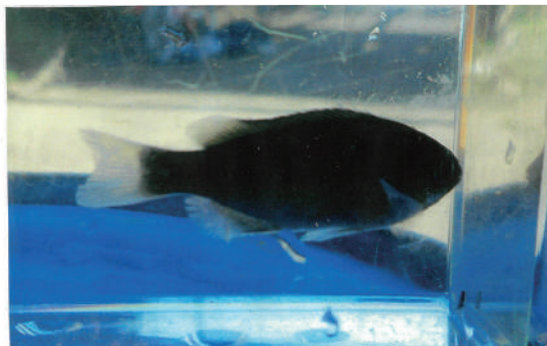
北海道～沖縄

40～60 cm

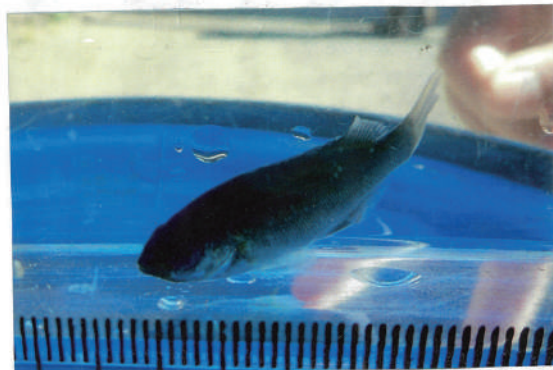
沿岸の浅い海の岩礁に生息する海水魚で、幼魚や未成魚は防波堤にもよく姿を見えます。
2023年6月に初めて干潮時の明石川河口付近の溜まりでメナダなどとともにタモ網で幼魚を捕まえました。
グレとも呼ばれています。(巨優愛)



メジナ幼魚 (絵、弓削朱花梨)



干潮時の明石川河口付近の溜まりでタモ網で捕まえたメジナの幼魚です。



今まで玉-アクアリウムでは明石市の林崎漁港の防波堤の釣りでは幼魚が釣れたことはありますが、明石川で捕れたのは初めてです。

カワアナゴ

川 穴 子

明 神

Eleotris oxycephala

カワアナゴ科 カワアナゴ亜科 カワアナゴ属

茨城県より南～屋久島

15～25cm 兵庫県Aランク
神戸市Bランク
明石市Bランク

明石川水系では、明石川下流で合流している支流の伊川の淡水域から河口の汽水域まで生息していて、川底の石の下や流木の下や捨てられたタイヤや空カンの中にいることが多いです。

いつもは暗褐色に背中が灰褐色の明るい色をしています。背景や感情で体の色が全体的に黒くなったり、縞模様が現れたりして変化します。

2015年の夏頃から伊川や明石川下流～河口で、カワアナゴの幼魚がよく捕れるようになりました。(徳田 梨花)



通常時



変化時

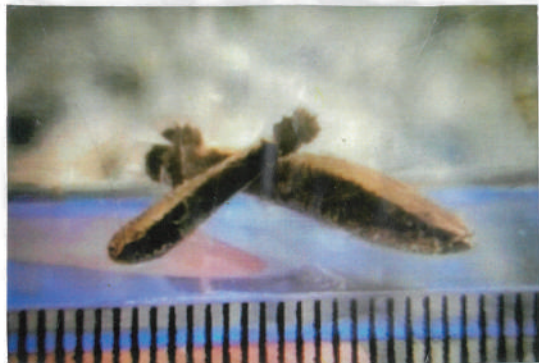
カワアナゴ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で合流する伊川の淡水域で見つけたカワアナゴの幼魚です。背中が明るい灰褐色をしています。



明石川下流の汽水域で、川底のタイヤの中にかくれていたのを捕まえたカワアナゴの成魚です。



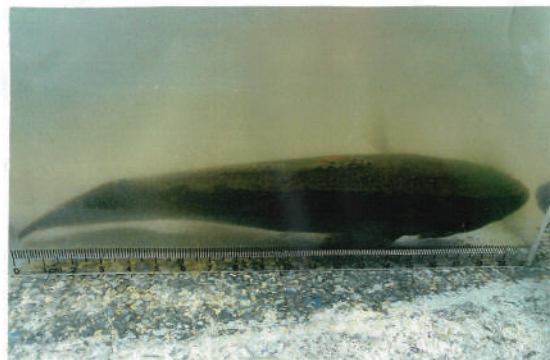
明石川下流～河口付近の汽水域で捕まえた
1.5cm～2cm 位のカワアナゴの小さな幼魚です。



明石川下流の汽水域で捕まえたカワアナゴの
大きめの幼魚です。



明石川下流の淡水域で仕掛けに入ったカワアナゴ
の未成魚～成魚です。縞模様が出ています。



淡水域の石の下にいたのを捕まえたカワアナゴ
の成魚です。15cm～25cm位になります。

ドンコ

鈍子

(神)(明)

Odonfobutis obscura

ドンコ科 ドンコ属

愛知県より西の本州、四国、九州

15cm～25cm

明石川水系では、上流～下流まで広く分布し、支流の福知川や田中川や櫛谷川などにも生息しています。

ヨシボリよりも数が少なく、石の下よりも草の茂みにかくれていることが多いです。

ヨシボリにある吸盤がなく、ぬめりも少ないので、うろこのザラザラ感がよくわかります。

どう猛な魚で、待ち伏せをして、甲殻類や小魚などを食べます。

水がきれいな所なら泥の多い場所でも生息できます。(和田勇翔)



ドンコ(絵・弓削朱花梨)



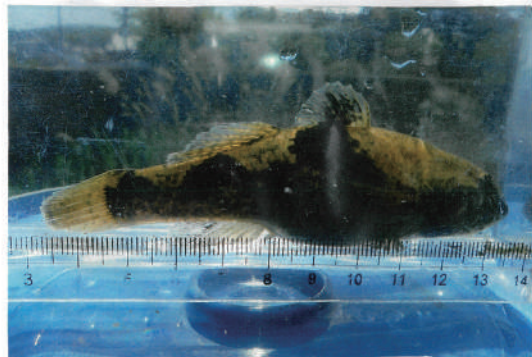
小石の中で上手に身をかくしているドンコの成魚です。よく見ないとどこにしているのかわかりません。



茂みをタモ網でガサガサして捕まえたドンコの成魚です。ヨシボリと違って石の下よりも茂みにかくれていることが多いです。



ドンコの1cm程の幼魚です。市松模様のような模様があり、感じがヒナハゼに似ています。



ドンコのメスの成魚です。産卵前でお腹が卵でふくらんでいます。



明石川支流の福知川で捕まえたドンコの成魚3匹です。上側の2匹がオスで、下の1匹がメスです。



ドンコのオスの成魚です。産卵期で体の色が黒くなっています。

ヒメハゼ

姫鰍

明

Fayonigobius gymnauchen

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒメハゼ属

北海道～西表島

7cm

捕れた時はマハゼの未成魚だと思いましたが、模様が違っていたので調べたら、ヒメハゼでした。
河口～内湾でよく見られるそうですが、明石川では下流～河口で、たまに見られます。
背中や体にモザイク模様があります。(西岡 龍介)



ヒメハゼ (絵・引削 朱花梨)



明石川下流のこの付近で捕れました。写真は別の日です。



捕れたヒメハゼです。捕れた時は感じがマハゼに似ていました。

ヒナハゼ

雛 鯊

(明) (神)

Redigobius bikolanus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヒナハゼ属

静岡県～西表島

3 cm

兵庫県要調査

小さくて可愛いハゼで、成魚でも3cm位にしかありません。

明石川では淡水域の下流～汽水域の河口に生息しています。

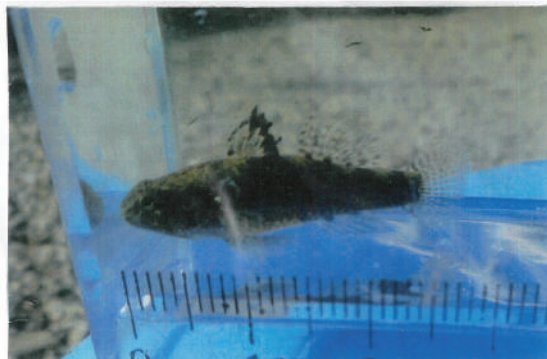
2017年6月に明石川河口で明石川水系では初めて捕れて、その後は明石川下流でも多く捕れるようになり、支流の伊川でも捕れました。

2022年7月には明石川下流の岩場で捕れたヒナハゼの成魚のオスは口が大きくなり、メスはお腹がふくらみ卵を持ち、オスメス共に産卵期の特徴があり定着していることがわかってきました。

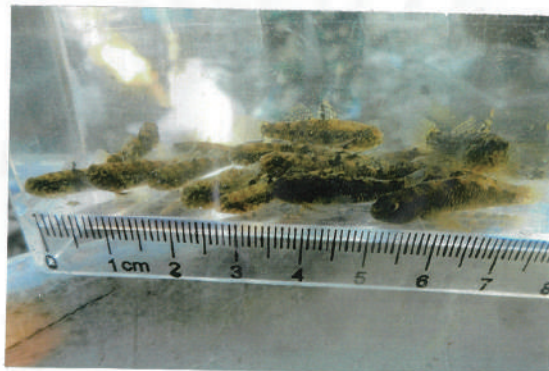
(西岡 龍介)



ヒナハゼ (絵・永田 惇人)



明石川下流で捕れたヒナハゼの成魚です。明石川水系では2017年に初めて捕れました。



明石川下流～支流の伊川で捕れたヒナハゼの未成魚～成魚です。こんなに捕れるようになりました。



2017年に初めて明石川河口付近で捕れたヒカゼです。ヨシボリの幼魚によく似ています。



メンバーが3年近く飼っているヒカゼの成魚です。赤虫をあけるとよく食べ、長生きすることもわかりました。



明石川下流～河口では、ヒナハゼの調査も含め定期的に調査をしています。



2022年の調査では 明石川下流で産卵期の特徴をもったオスとメスの成魚が多数捕れ、岩場で産卵しているらしいこともわかってきました。

アベハゼ

阿部鯊

(明)(神)

Mugilogobius abei

ハゼ科 ハゼ亜科 アベハゼ属

宮城県、富山湾より南～瀬戸内海、隠岐
対島、種子島

4cm～5cm

運河や河口などの汽水域に生息していると言われていますが
明石川水系では明石川下流の淡水域にも生息しています。

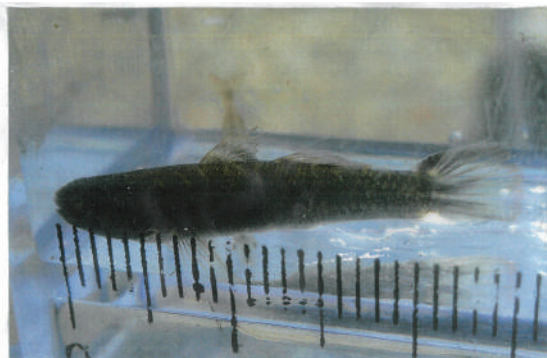
頭が小さいハゼで、干潮時に泥や枯れ葉の多い溜まり
で捕れることが多いです。

淡水で飼っても長生きします。

幼魚～未成魚は小さくて地味ですが、成魚になるとオス、
メス共に婚姻色がきれいです。(西岡 龍之介)



アベハゼ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域で捕まえたアベハゼの未成魚
です。流れのある川底の石の下にいました。



明石川下流の汽水域の溜まりで捕まえたアベハゼ
の婚姻色の出ているメスの成魚です。お腹に卵を
持っていました。

カワヨシノボリ

川葦登

神 明

Rhinogobius flumineus

ハセ科 ハゼ亜科 ヨシノボリ属

富山湾、静岡県より西の本州、四国、九州北部
対馬、五島列島

6cm

アクアリウムの調査で、明石川水系の源流～下流まで
どこにでもいた魚で、オイカワと共に明石川のシンボルでし
たが、最近では特に減っています。

かつては明石川上流～中流や支流の櫛谷川にたくさん
いました。

腹ひれが変化した吸盤を持ち、川底の石の下にかくれて
いることが多いです。

カワヨシノボリにとって、きれいな水の流れは必ず必要で
川がせき止められて泥がたまるといなくなります。(中 初音)



カワヨシノボリ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の櫛谷川の川底の石の裏に産卵していたカワ
ヨシノボリの卵です。よく見ると卵の中に目や体が見えます。



明石川中流の川底の石の下にいたのを捕まえたカワヨシ
ボリの成魚のペアです。最近ではとても減っています。

シマヒレヨシボリ

縞高鰭垂登

神 明

Rhinogobius sp. BF

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

沖縄県以外の日本全国

4cm～5cm

明石川水系では明石川中流～下流に生息していますが、どちらかと言うと、明石川と池をつなぐ用水路に多くいて、トウヨシボリ系高鰭型と呼ばれていました。

カワヨシボリと比べて月同が短く太い感じです。

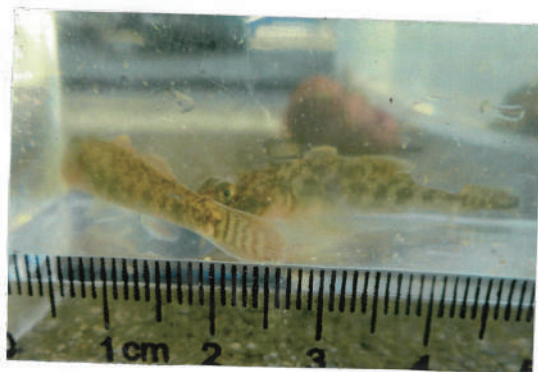
また、カワヨシボリよりも飼いやすく、ヌマエビの幼体をよく食べ、よく成長します。(西岡 龍介)



シマヒレヨシボリ (絵・永田 惇人)



明石川と池をつなぐ用水路で捕まえたシマヒレヨシボリの成魚です。カワヨシボリよりずんぐりした感じがです。



このシマヒレヨシボリも用水路で捕まえました。用水路の泥の中にかくれていました。

シマヨシボリ

縞 葦 登

(神)(明)

Phinogobius sp. CB

ハゼ科ハゼ亜科 ヨシボリ属

青森県～南西諸島

7cm

神戸要調査

河川の中流に生息し、よく見かけるヨシボリとして知られていますが、明石川水系では明石川下流の淡水域や支流の伊川に生息していて数は少ないです。

頬に迷路のような赤い模様があり、尾びれのつけ根に「く」の字型の模様があるので他のヨシボリと見分けられます。

カワヨシボリよりも大きく、産卵期のメスの成魚はお腹が青く輝いてきれいです。(西岡 龍介)

オス♂



メス♀



シマヨシボリ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流で合流している支流の伊川で捕まえたシマヨシボリの成魚です。初めて見た感じや手触りがゴクラクハゼに似ていました。



シマヨシボリは第2背びれと尾びれに細かい斑点があり、尾びれのつけ根に「く」の字型の模様があります。

ゴクラクハゼ

極楽魚

明神

Rhinogobius giurinus

ハゼ科 ハゼ亜科 ヨシボリ属

茨城県、秋田県より南の本州、四国、九州
琉球列島 8cm

神戸市Cランク
明石市Bランク

河川の下流～河口に生息し、仔魚は海に下るハゼとして知られていますが、明石川水系でも下流に多く、大きな石の下や空き缶の中によくかまれています。

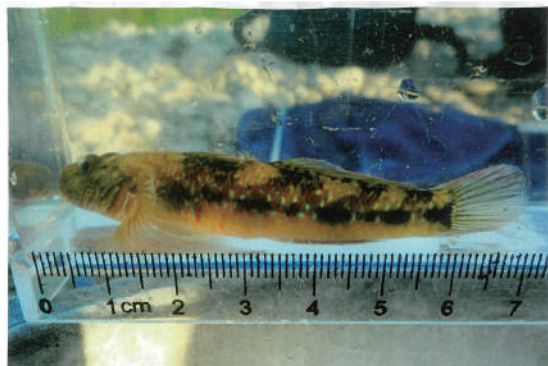
しかし、数は少ないですが明石川上流～中流や支流の伊川や田中川、明石川中流につながる用水路などにも飛び地のように生息していて、それが自然分布によるものか、他の川とつながる東播用水によるものか、放流によるものかは不明です。

成魚になると体側に青いキラキラが点在してきれいです。

(佐野こころ)



ゴクラクハゼ (絵、弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。
明石川下流にはたくさん生息しています。



玉津第一小学校で飼っていたゴクラクハゼの成魚です。
いつも石レガの上にはいました。



餌も食べずに冬眠するゴクラクハゼです。玉津第一小学校で飼ってみて初めて石に潜って冬眠することがわかりました。



明石川下流にいたゴクラクハゼの成魚です。人を見てもあまりこわがらずに水面観察をしても逃げません。



明石川上流の押部谷付近で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。下流に生息しているものと比べて小さくて、感じがヨシノボリに似ています。



明石川支流の田中川用水路の平野付近で捕まえたゴクラクハゼの成魚です。田んぼの中の水路にいて、下流に生息しているものと比べて、透き通っている感じがです。

チチブ

知知武

明神

Tridentiger obscurus

ハゼ科 ハゼ亜科 チチブ属

本州～九州

8cm

河川の下流～河口に生息し、明石川水系では明石川下流で合流している支流の伊川や明石川下流～河口にいて川底の石の下や川に捨てられた大型ゴミの下や空き缶の中にもよくかくれています。

チチブは明石川にふつうにいるハゼですが、年によって幼魚が大量発生してチチブばかり捕れたり、反対に全然捕れなくなることもあり、わからないことも多いです。

オスの成魚の第1背びれの棘条は糸のように長く伸びます。

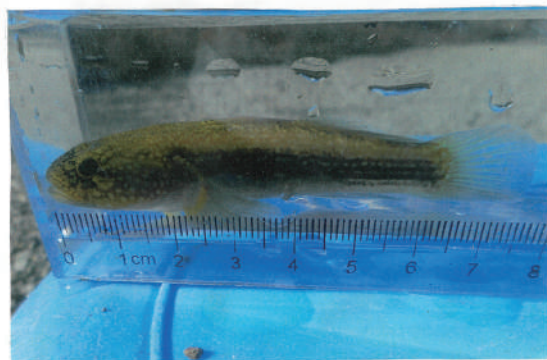
(和田勇翔)



チチブ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域でチチブの成魚の水面観察です。2匹が仲良くしていました。



明石川下流で捕まえたチチブの成魚です。よく石の下にいますが、幼魚～未成魚は川の中に捨てられた空き缶の中にもいることも多いです。

ウロハゼ

洞 鯊

(明)

Glossogobius olivaceus

ハゼ科 / ハゼ亜科 ウロハゼ属

茨城県より南の本州、四国、九州、種子島

20 cm

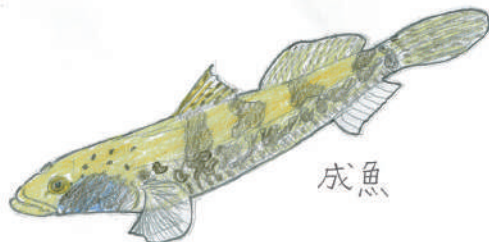
淡水と海水が混ざり合う河川の河口付近に生息し、明石川水系では下流の汽水域にも多く、川底の石の下や捨てられたタイヤやパイプの中によくかくれています。

背景や感情で体の色が大きく変化します。

ウロハゼの幼魚は、色が薄くて細長く、感じがマハゼやゴクラクハゼによく似ています。(佐野こころ)

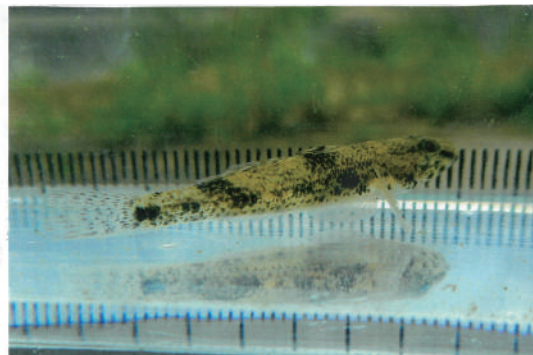


幼魚



成魚

ウロハゼ (絵 弓削 朱花梨)



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの幼魚です。感じがマハゼに似ています。



明石川下流の汽水域で捕まえたウロハゼの未成魚です。明石川下流の伊川合流点付近の下から河口にかけて生息しています。

マハゼ^{明神}

Acanthogobius flavimanus

ハゼ科 ハゼ亜科 マハゼ属

北海道～種子島

13cm～25cm

河川の汽水域～内湾に生息し、初夏～晩秋にかけては明石川下流の淡水域にも幼魚～未成魚が遡ります。

石が多く石もある所が好きで、石の下や空き缶の中にかくれていることも多く、石の上に群れていることもあります。

成長が早くてすぐに大きくなり、初夏～初秋は明石川下流で幼魚～成魚がよく捕れ、夏～秋は河口付近で成魚がよく釣れます。(巨優愛)



マハゼ (絵・弓削 朱花梨)



初夏に明石川河口付近で捕まえたマハゼの幼魚です。幼魚は感じがヨシボリによく似ています。



夏に明石川下流で捕まえたマハゼの成魚です。マハゼは成長が早くてすぐに大きくなります。

ミズハゼ

虹鰻 鰻

(明)

Luciogobius guttatus

ハゼ科 ハゼ亜科 ミズハゼ属

北海道～沖縄県

8cm 神戸市Cランク

明石市Bランク

神戸市の住吉川河口付近にはたくさん生息していますが、明石川河口付近にも生息しているのを確認しています。

石の下にかくれているので、石をめくると捕れることが多いです。

1匹ずつ微妙に色が違って、体が細長くてドジョウのようですが、うろこがなく、ハゼの仲間ですが、第1背びれもありません。

河口から下流にも進入しますが、海水が流れ込む汽水水域にいて、淡水域にはいません。(西岡 龍之介)



ミズハゼ (絵 弓削 朱花梨)



明石川河口で捕まえたミズハゼの成魚です。うろこがなく、ヌルヌルしていて見た目は細長くてドジョウみたいです。



明石川下流の汽水域の石かげにかくれているミズハゼの成魚です。明石川にも生息していることがわかりました。

ウキゴリ

浮魚体

明神

Gymnogobius urotaenia

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道、本州、九州

12cm 兵庫県Cランク
神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川下流～河口では、スミウキゴリよりも上流の下流淡水域に生息し、スミウキゴリよりも数が少ないです。

明石川下流で合流している支流の伊りや明石川下流の流れのゆるやかな川底の石の下にいます。

第1背びれの後ろに黒い斑点があり、体はかなりヌルヌルしています。(西岡 龍え介)



ウキゴリ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流の淡水域の流れがゆるやかな川底にいました。



ウキゴリは第1背びれの後ろに黒い斑点があるのが特徴です。頭がひしゃげのように見えます。

スミウキゴリ

墨浮鮚

明神

Gymnogobius petschiliensis

ハゼ科 ハゼ亜科 ウキゴリ属

北海道～屋久島

9cm 神戸市Cランク

ウキゴリよりも下流の汽水域に生息し、第1背びれに黒い斑点がありません。

神戸市の住吉川河口での生息は確認していましたが、2018年に明石川河口付近でも初めて捕れました。

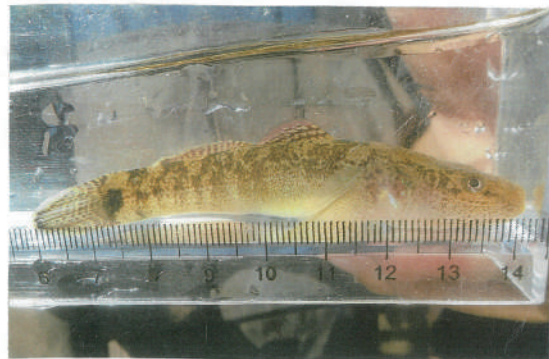
明石川下流の淡水域にはウキゴリが、明石川河口の汽水域にはスミウキゴリが生息していることがわかりましたが、時にはスミウキゴリが明石川下流の淡水域や支流の伊川で捕れることもあります。(西岡 龍え介)



スミウキゴリ (絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口付近の海にとっても近い場所の流れのゆるやかな石の間にいました。



明石川河口付近で捕まえたスミウキゴリの成魚です。大きな石の下にニホンウナギとかくれています。

マゴチ 真鰻 明

Platycephalus indicus

コチ科 コチ属

山形県・宮城県より南
50cm

成魚は砂や泥の海底に生息していますが、夏は汽水域の河口にも進入してくると言われています。

写真の個体は、河口よりもずっと上流の明石川下流の淡水域の砂底にいたところを捕まえました。

体は足で上から踏みつけられたような特徴的な体形で、頭に刺があり触ると痛いです。(西岡 龍介)



マゴチ (絵・藤澤 太一)



川底の砂を頭にかけて上手に身を隠しているマゴチの幼魚です。体の模様が川底の景色によく似ています。



明石川下流の川底に隠れていたのを捕まえたマゴチの幼魚です。平べったい体形です。

ミナミメダカ

南目高

(神)(明)

Oryzias latipes

メダカ科 メダカ属

本州～沖縄

4cm

絶滅危惧Ⅱ類

兵庫県要注目種

明石市Bランク

神戸市Cランク

明石川水系の上流～河口近くまで広く生息していますが、用水路や下流の水の流れが弱くて栄養分が多い場所では群れになって泳いでいます。

目は口と同じ高さの位置にあって、水面近くの蚊の幼虫のボウフラやミジンコが食べやすいように口が上を向いています。
2020年頃からは、田中川用水路や平野大池用水路で1000匹以上のミナミメダカが確認できるようになりました。
(和田 勇翔)



ミナミメダカ オス♂



ミナミメダカ メス♀

(絵・弓削朱花梨)



4月に明石川支流の櫛谷川の糸田流にいたミナミメダカのペアです。まさに春の小川です。



明石川中流の淀みて捕まえたミナミメダカの成魚です。明石川水系には、たくさんミナミメダカがいるのでうれしいです。



明石川水系で捕まえた ミナメダカです。明石川水系では ミナメダカは増えています。



田中川用水路で捕まえた印印を持ったミナメダカのメスの成魚です。すぐにリリースしました。



田中川用水路や平野大池用水路では、1000匹以上のミナメダカが確認できるようになりました。



明石川中流の魚道で捕まえた変異メダカです。群れの中で泳いでいる時から目立っていました。放流された個体のようで、メンバーが持ち帰って飼育しました。

カダヤシ

蚊 絶やし



Gambusia affinis
カダヤシ科 カダヤシ属

本州、四国、九州、沖縄県
3cm~5cm

特定外来生物 **兵庫県注意種**
総合対策外来種 **神戸版ブラックリスト**
重点対策外来種 **外来生物種**

明石川水系では、汚水処理場の排水の出口や工場排水の出口など、水温の高い場所に生息しています。

明石川の森友付近や支流の田中川の水路など限られた場所において、田中川用水路のカダヤシはアクアリウムが馬区除をしたので絶滅し、今はミナメダカがたくさん生息しています。

繁殖力が強いと言われていますが、明石川水系では数が少なくミナメダカの方が多いです。(西岡 龍介)



カダヤシ (絵: 弓削 朱花梨)



右側の大きな1匹がメスで、左側の2匹はオスです。カダヤシは、オスとメスで1体の大きさが2倍くらい違います。



カダヤシは、ミナメダカによく似ていますが、尻びれの位置や形で見分けることができます。このカダヤシは垂水区の福田川産です。

グッピー

(神)

Poecilia reticulata

カダヤシ科 グッピー属

北海道～九州の水温の高い場所
2.5cm～4.5cm

総合対策外来種

その他の総合対策外来種

観賞用として家で飼われ、その後逃げ出したり、逃がされたものが、水温の高い場所で生き残り増えています。

今まで明石川水系では、下水処理場の温かい排水が流れ込む水路に生息していましたが、誰かが放流したものが、2014年には明石川中流で、2019年には明石川支流の田中川の小さな水路で爆発的に増えているのを発見し、馬区除を続け現在は減っています。(竹葉真心)



オス♂



メス♀

グッピー (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の田中川の小さな水路でグッピーの調査をしている様子です。現在は馬区除を続けて減っていますが、以前はこんな小さな水路に数百匹のグッピーがいました。



上の小さな水路で捕まえたグッピーです。色がきれいなグッピーと地味な色のグッピーがいて、地味なグッピーはミナミメダカに似ていますが、尻びれなどの位置や形を見ると違いがわかります。

ギギ

義義

神(明)

Pseudobagrus nudiceps

ギギ科 ギバチ属

近畿以西の本州、四国、九州東北部

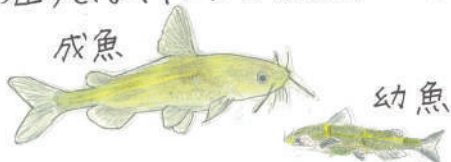
25cm ~ 30cm

神戸市Bランク

ナマズに似ていますが、ひげが8本あり、あぶらびれもあります。

水の汚れや環境の変化に弱く、川底がきれいな砂から泥に変わると、すぐにいなくなりますが最近の調査では増えています。

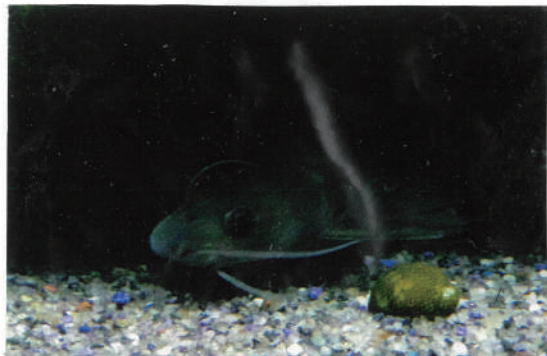
背びれと胸びれにとげがあり、刺されると痛いと言われていますが、ふつうに触って刺されることはありません。水から出すと、よくギィギィと鳴きます。(西岡 龍介)



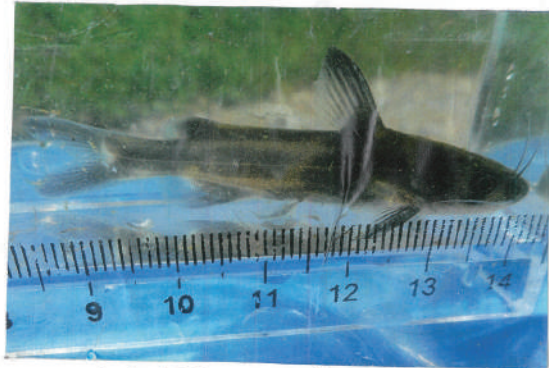
成魚

幼魚

ギギ(絵・弓削朱花梨)



玉津第一小学校で飼っていた明石川産のギギです。餌を食べる時以外は、流木の下にかくれていました。大きく育ったので明石川の元の場所にリリースしました。



明石川中流で捕まえたギギの幼魚です。最近捕れることが多くなりました。



明石川中流で6月に捕まえた産卵間近のギギのメスの成魚です。すぐにリリースしました。



上のギギのメスの成魚をリリースした場所で、その後ギギの小さな幼魚が20匹ぐらい捕れました。



その後も同じ場所で幼魚が育っていました。



明石川中流の別の場所で7月に捕まえたギギの幼魚です。1回目は23匹、2回目は18匹捕れました。

ナマズ

魚 鯰

神 明

Silurus asotus

ナマズ科 ナマズ属

日本全国

60 cm

河川の中流～下流に生息し、明石川水系でも中流～下流や用水路、池にもいます。

深くて流れが少ない、底に泥が溜まっているような場所にいますが、きれいな水を好みます。

明石川沿いの田んぼの多くがパイプラインになり、ナマズが田んぼに進入して産卵することは難しくなりましたが、明石川中流～下流の流れの弱い茂みや用水路などに多く産卵し、幼魚が適応して成長しています。(中 初音)



ナマズ(絵: 弓削 朱花梨)



明石川中流で捕まえたナマズの成魚です。60cm近くありました。



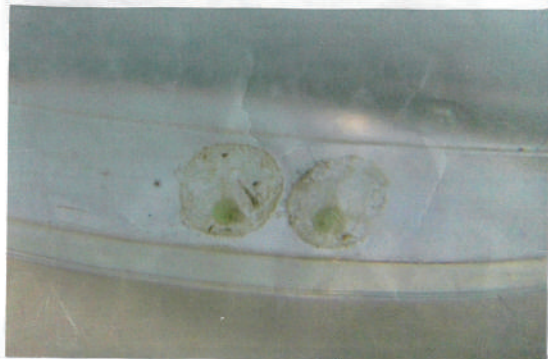
明石川支流の田中川用水路で捕まえたナマズの成魚です。用水路にもこんなに大きなナマズがいます。



産卵するために浅くて流れがゆるやかな場所に移動してきたナマズの成魚です。



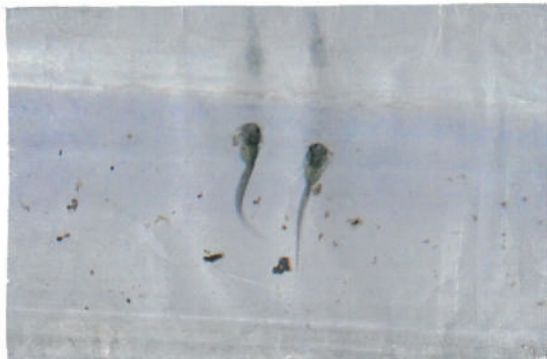
ナマズが産卵した場所から採取したナマズの卵です。意外と大きいです。



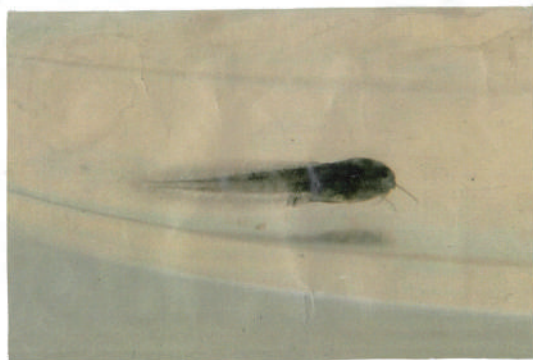
孵化する1日前のナマズの卵です。もう卵の中に形ができています。



孵化して間もないナマズの仔魚です。まだ透明です。



卵孵化3日目のナマズの仔魚です。お腹にはまだ卵黄が残っています。



卵孵化5日目のナマズの仔魚です。お腹の卵黄がなくなっています。



明石川中流で捕まえたナマズの幼魚です。川岸の草の茂みにヌマエビやハグロトンボの幼虫と一緒にいました。



カエルの幼生のオタマジャクシとナマズの幼魚が似ていると言われますが、そんなに似ていません。左がオタマジャクシで、右がナマズの幼魚です。

テングヨウジ

天狗楊枝



Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus

ヨウジウオ科 ヨウジウオ亜科 テングヨウジ属

相模湾より南

25 cm

河川の下流に生息し、2020年の11月に初めて明石川下流～河口の草が茂っている淡水域で捕獲しました。

その後、2022年の9月にはテングヨウジの成魚が、2023年の9月にはテングヨウジの幼魚が捕れ、2020年以降は、ほぼ毎年のようにテングヨウジが捕れています。

名前の通り、大きな楊枝や木の枝のように、クネクネと泳がずに棒のようにゆっくりとスーッと移動します。

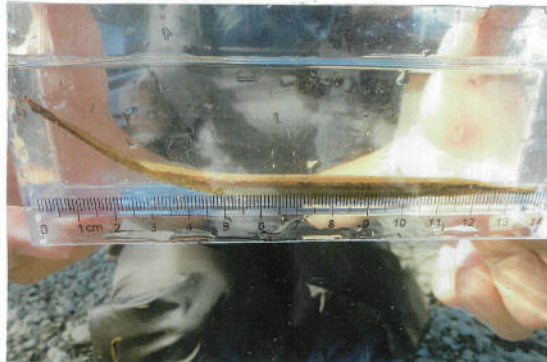
観察すると体側にごく薄い赤色の縦筋があるのもテングヨウジの特徴です。(西岡 龍介)



テングヨウジ (絵: 永田 惇人)



捕まえてすぐにバケツに入れて上から見たテングヨウジの成魚です。体を曲げずに木の枝のようにスーッと泳ぎます。



明石川下流の淡水域で捕まえたテングヨウジの成魚です。他のヨウジウオより吻が長く、背びれが体の後方にあり、体側に薄い赤色の縦筋があります。

ボラ

鰯

(明) (神)

Mugil cephalus cephalus

ボラ科 ボラ属

日本 全国

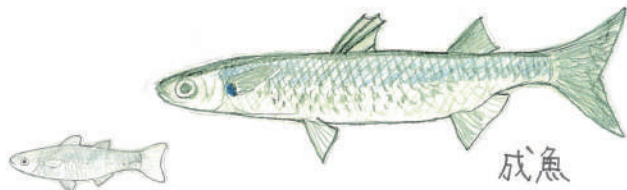
60 cm

河川の下流～内湾に生息し、春～初夏にボラの幼魚の大群が明石川下流に遡り、時には冬から遡ることもあります。

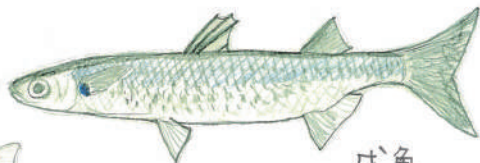
川底の石やコンクリートに生えた藻類を群れになって身をひる返しながら食べるようすは、オイカワによく似ています。

他の魚よりも胸びれが上の方についていて、胸びれの元には青色の斑紋があり、第1背びれと第2背びれは離れています。

追い込まれると水面を飛んで逃げます。(中村 颯希)

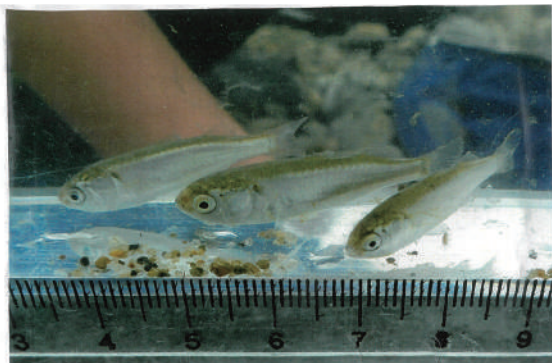


幼魚



成魚

ボラ (絵・弓削 朱花梨)



明石川下流で捕まえたボラの幼魚です。春～初夏に明石川を遡り、支流の伊川や下流の水路にも進入します。



明石川下流で追い込んで捕まえたボラの成魚です。こんなに大きくなります。

メナダ

目 奈 陀

(明)

Chelon haematocheilus

ボラ科メナダ属

北海道～九州

1 m

河川の河口付近～内湾に生息し、2023年初夏の干潮時に明石川の河口付近までいを下った時に溜まりや本流で幼魚が初めて捕れました。

捕れた時の感じはボラだったけれど、ボラよりも体が細長くタカハヤのような斑点があり、調べてメナダだとわかりました。

ボラは下流まで遡りますが、メナダは遡らずに河口～内湾にいたので、河口に行って初めて捕まえられました。

メナダは胸びれの元に青色の斑点はなく、目の上部が薄い赤色をしています。(豆 優愛)



メナダ幼魚(絵、弓削 朱花梨)



干潮時の明石川河口で溜まりにタモ網を入れて捕ったメナダの幼魚です。たくさん捕れました。



明石川河口で捕れたメナダの幼魚です。ボラの幼魚に似ていますが体が細長く、胸びれのつけ根にある青色斑がメナダにはありません。

クサフグ

草河豚

(明)

Takihugu niphobles

フグ科 トラフグ属

青森県～沖縄県

15cm

河川の河口付近～内湾に生息し、明石川河口付近に多くいて、橋の上から見ると大きなボラやゴイの成魚の群れの近くでクサフグの群れがちょろちょろしているのが見えます。

歯が強く噛まれたら痛いし、河口で釣りをしていると餌をとられるだけでなく、よく釣糸を切られます。

明石の浜辺でもクサフグが集団で産卵するようすが見られます。(中村 颯希)



クサフグ(絵・弓削 朱花梨)



干潮の明石川河口で逃げるクサフグの後を追いかけて捕まえたクサフグの成魚です。



捕まえたクサフグを真正面から見ると、お腹の小さなトゲトゲがよくわかります。

シマフグ

縞河豚



Takifugu xanthopterus

フグ科 トラフグ属

相模湾より南

45cm～50cm

日本以外では、朝鮮半島沿岸、黄海、東シナ海と南シナ海沿岸、台湾などに分布しているフグです。

2019年の秋に明石川河口の釣りによる調査で初めて2匹捕獲しました。

肝臓や卵巣に強い毒がありますが食用フグです。

(西岡 龍之介)



シマフグ(絵: 弓削 朱花梨)



明石川河口で、クサフグやクロダイの幼魚などと一緒に釣れたシマフグの幼魚です。とてもきれいなフグです。



写真のようにシマフグの背中にもお腹にも小さなトゲがたくさんあって、ガザガザ感があります。

ウシガエル

牛 蛙

神 明

Lithobates catesbeianus

アカガエル科 アメリカアカガエル属

北海道、本州、四国、九州、南西諸島

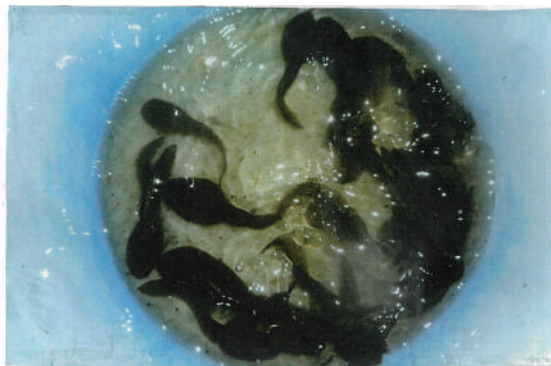
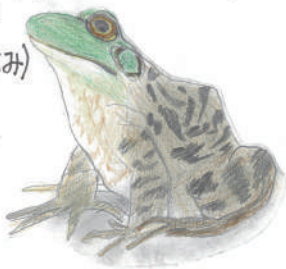
11~18 cm

特定外来生物
総合対策外来種
重点対策外来種

兵庫県警戒種
神戸版ブラックリスト
外来生物種

北アメリカ原産のカエルで、明石川水系では本流の明石川下流や、樫谷川や田中川や伊川や用水路など、水の流れがおだやかな所に多くいます。たまたに幼生のオタマジャクシが大量発生して、驚きます。肉は鶏肉みたいで“淡白”とてもおいしいです。(駒板なみ)

ウシガエル(絵 駒板なみ)



明石川支流の伊川の上南橋付近の溜まりにいたウシガエルのオタマジャクシです。たくさんいました。



明石川支流の伊川の白水橋付近で育まれたウシガエルの成体です。



明石川中流で大きなウシガエルの成体を捕まえました。きれいな場所にいたので、解体してからあげにして、おいしくいただきました。



ウシガエルの前足と後ろ足の肉で作った骨付きのからあげです。鶏肉みたいでとてもおいしいです。



明石川支流の櫛谷川で大量発生したウシガエルのオタマジャクシです。オタマジャクシを捕って振り回したらまいたる感じで100匹以上駆除できました。



明石川支流の伊川と明石川下流の合流点付近の溜まりで捕まえたウシガエルの幼生と幼体です。

ヌマガエル

沼蛙

神 明

Fejervarya kawamurai

ヌマガエル科 ヌマガエル属

本州中部より西、四国、九州、奄美、沖縄

3cm ~ 5cm

河川や池や湿地や田んぼなどに生息し、明石川水系では明石川上流～下流や用水路、田んぼなどに多く、明石川から少し離れた玉・アクリウム・のナセーにもたくさんいます。

虫やミズなど食べる肉食で、ヌマガエルの前に虫やミズをポトリと落とすと、うれしそうに食べる姿がかわいいです。

ツチガエルと似ていますが、ツチガエルのお腹には斑紋があるのに対して、ヌマガエルのお腹は真っ白なので区別できます。

(竹葉真心)



ヌマガエル(絵・弓削 朱花梨)



ナセーの裏の田中川の小さな水路で捕まえたヌマガエルの幼生(オタマジャクシ)です。白い変異個体もありました。



明石川下流で捕まえたヌマガエルの成体です。明石川下流にも幼生(オタマジャクシ)や幼体や成体があります。

スッポン

鱉

神 明

Pelodiscus

スッポン科 スッポン属

本州より南

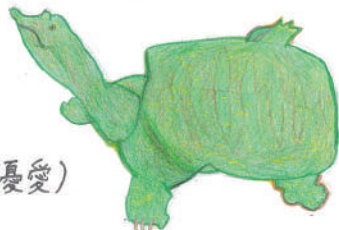
15cm~35cm

明石川水系では、中流~下流や支流の深くて流れがゆるやかで川底に砂がたくさんある場所に生息しています。

日光浴が大好きですが、人間の姿が見えるとすぐにかくれます。

昔、明石川中流の平野町のあたりで中国産のスッポンの養殖をしていたという情報があり、秋になるとこの付近で幼体が多く捕れることから、明石川に生息するスッポンが在来種か外来種かは不明です。

ほぼ肉食です。(西岡 龍之介)



スッポン(絵: 亘 優愛)



明石川中流で捕まえたスッポンの幼体です。口を開けて威嚇していましたが、手のひらに乗せるとおとなしくなりました。



明石川中流で捕まえたスッポンの成体です。みんな交代で甲羅を持ってプニプニ感を石確かめました。

アカミミガメ

赤耳亀

神 明

Trachemys scripta

ヌマガメ科 アカミミガメ属

放流によりほぼ日本全国

28cm

特定外来生物

総合対策外来種

緊急対策外来種

兵庫県警戒種

神戸版ブラックリスト

外来生物種

明石川水系では、深く清流がゆるやかな場所に生息し、雑食ですが成体になると藻をよく食べています。

オスは前足の爪が長く伸びます。日光浴が大好きで、明石川の堰では集団で甲羅干しをしている姿が見られます。

馬区除をしていますが増え続けていて、馬区除をしたアカミミガメは命を無駄にしないように肥料にしたり解体して食べています。

鶏肉みたいでおいしいです。

(西岡 龍之介)

アカミミガメ



(絵・駒板なみ)



明石川中流で捕まえたアカミミガメの幼体です。明石川水系で繁殖しています。



しかけのカゴ網で捕まえたアカミミガメの未成体～成体です。馬区除をしても増え続けています。



アカミガメの幼体はミドリガメと呼ばれ、とてもかわいいですが、長生きをして大きくなるので、そのことを知って最後まで飼って欲しいです。



2023年夏の明石川中流の様子です。アカミガメをカゴ網やタモ網で駆除をしても、まだこんなにたくさんさんのアカミガメがいます。



アカミガメを解体している様子です。のこぎりで甲羅の上下を切り離し、足の付け根の肉を取り出します。



アカミガメの足の付け根の肉のからあげです。とれる肉の量は少ないですが、赤身の牛肉や鶏肉のようで、とてもおいしいです。

クサガメ

草亀 臭亀

神 明

Mauremys reevesii

イシガメ科 クサガメ属

本州～九州

30 cm

外 来 種

明石川水系では 最近はずいぶん捕れる回数が減っていて、甲羅にキールが3本あり捕まえると独特の臭いを出します。

明石川水系ではアライグマに食べられて前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多います。

ニホンイシガメとの交雑をさけるため、クサガメが捕れると、なるべく下流に持って行ってリリースしているので、下流でよく見かけられるようになりました。(駒板 なみ)



クサガメ (絵、駒板 なみ)



明石川中流の流れが弱い淀みの草の茂みで捕まえたクサガメの幼体です。初夏の頃に捕れます。



標識がついたクサガメの成体です。明石川水系では淡水ガメの専門家が行動の調査をしているため時々標識がついたクサガメが捕れます。

ニホンイシガメ

日本石亀

(神) (明)

Mauremys japonica

イシガメ科 イシガメ属

本州、四国、九州

13cm~20cm 兵庫県Cランク

準絶滅危惧

神戸市Aランク

明石市Aランク

明石川水系では、最近見かける回数が急に減っていますが、特に幼体を見る機会が激減しています。

明石川水系では、アライグマに食べられて前足や後ろ足や尻尾の先がない個体が多いです。

明石川本流にもいますが、支流の櫛谷川や田中川で見ることの方が多いです。(西岡龍之介)



ニホンイシガメ (絵・北井 蒼大)



明石川支流の櫛谷川の近くにいたのを捕まえたニホンイシガメの幼体です。幼体が特に減っています。



明石川中流にいたニホンイシガメのメスの成体です。成体も減っています。

ニホントカゲ

日本蜥蜴

神 明

Plestiodon japonicus

トカゲ科 トカゲ属

本州西部、四国、九州、大隅諸島など

16cm～25cm **明石市Bランク**

山地～住宅地に生息していますが、明石川水系では源流～中流の土手に多く生息しています。

幼体は黒地に黄白色の5本の縦線模様があり尻尾はきれいな青色で虹色みなのですが、成体になると胴はオリーブ色から茶褐色で体側に黒褐色の太い縦縞が入り尻尾も胴と同じ地味な色になります。

昆虫などの小さな生き物を食べる肉食で、光沢があり滑らかで、体に対して尻尾が短いです。(亘 優愛)



ニホントカゲ幼体 (絵・亘 優愛)



明石川中流の川沿いで捕まえたニホントカゲの幼体です。鮮やかで、とてもきれいな色をしています。



明石川支流の印路川源流の土手で捕まえたニホントカゲの成体です。重厚感があり滑らかな触り心地です。

ニホンカナヘビ

日本金蛇

(神)(明)

Takydromus tachydromoides

カナヘビ科 カナヘビ属

北海道、本州、四国、九州および周辺の島

18cm~25cm

山地~住宅地に生息していますが、明石川水系では源流~下流の土手に多く生息し、中流の中州には特に多く生息しています。

幼体は黒褐色で、成体は背中が灰褐色でお腹は黄白色~褐色がかた黄色をしています。

昆虫などの小さな生き物を食べる肉食で、体の表面は光沢がなくざらざらしていて、体に対して尻尾が長いです。

耳がわかりやすいのもニホンカナヘビの特徴です。(宮本彩音)

ニホンカナヘビ (絵: 宮本 彩音)



明石川中流の中州で捕まえたニホンカナヘビの成体です。見た通りのざらざらした触り心地です。



この個体も明石川中流の中州で捕まえました。中州には野原もあって、倒木や枯れ草もあり、格好の場所みたいでたくさん生息しています。

ニホンマムシ

日本 蝮

神

Gloydus blomhoffii

ツサリヘビ科 マムシ属

北海道～九州

45cm～60cm

平地～山地、森林などに生息し、水辺が好きなので川や用水路の茂みや田んぼの畔や土手などにもいます。

体に黒い縁取りのある黒褐色の斑紋が並んでいます。

ふつうのヘビは人が近づくと逃げますが、ニホンマムシは毒を持ち時には逃げずに口噛んでくる場合がありますので注意が必要です。

ニホンマムシが近くにいると化粧品のような独特のいい香りがします。

(西岡 龍え介)



ニホンマムシ (絵: 弓削 朱花梨)



増水の時に明石川中流に流されてきて、茂みにひっかり死にかけていたニホンマムシの未成体です。



棚田の作業の帰りに水路で見つけたニホンマムシの成体です。ふつうのヘビと比べて体の模様や胴の太さなど違いがよくわかります。

ヒバカリ

日ばかり



Hebius vibakari

ナミヘビ科 ヒバカリ属

本州、四国、九州、壱岐、屋久島

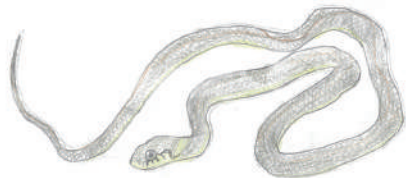
情報不足 40cm~65cm 神戸市Cランク
明石市Bランク

明石川水系では明石川源流~中流、用水路などに生息しています。

昔は毒ヘビと思われていて、名前は「このヘビに噛まれたら命はその日ばかり」と言われていたからです。

水辺が好きで泳ぎも他のヘビより上手で、小魚やカエル、オタマジャクシやミズをよく食べ、水辺の草の茂みをガサガサしてウナギが捕れたのかと思ったらヒバカリだったことが何回もありました。

とても大人しくて、かわいいヘビです。(和田勇翔)



ヒバカリ(絵・弓削 朱花梨)



平野大池の用水路にいたヒバカリの幼体です。みんなで交代して触れ合ったあとリリースしました。



昔は毒ヘビだと思われていたヒバカリですが、本当はこんなに大人しくてかわいいヘビです。玉-アクリウムのメンバーたちが大好きな生き物の1つがこのヒバカリです。

シマヘビ

縞蛇

(神)

Elaphe quadrivirgata

ナミヘビ科 ナメラ属

北海道～九州

80cm～150cm

神戸市要調査

水田や野原や森林などに生息し、河川敷にもいます。

体には4本の黒い縦縞模様が入り、幼体は縦縞が無いが半リズク、赤褐色の横縞が入ります。

大人しい個体もありますが噛んでくる個体もいて、頭部を三角形にして、尾を震るわせて威嚇することもあります。(中村颯希)



シマヘビ(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川の更に支流の印路川の源流付近のため池の土手の石の下にいたシマヘビの幼体です。



まだ早春の寒い時期だったので、シマヘビの幼体を手の上に乗せると、じっとしていました。

アオダイショウ

青大将



Elaphe climacophora

ナミヘビ科 ナメラ属

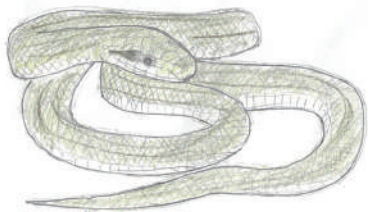
北海道～九州

1m～2m 神戸市要調査

明石川水系では明石川中流で見かけることが多く、河川敷や土手などに生息しています。

かなり大きくなるヘビで、目の後ろに黒い縞模様があります。個体差があり、大人しいのもいれば、狂暴で噛んでくるものもいます。

捕まえると、青臭い独特の臭いを出します。(佐野こころ)



アオダイショウ (絵、弓削 朱花梨)



明石川中流の田中川合流点付近の河原で捕まえた大人しいタイプのアオダイショウで触れ合いを楽しみました。



明石川中流の土手の農道で捕まえた狂暴なタイプのアオダイショウです。捕まようと何度か噛まれ、更に何度も噛んできました。

ヒクイナ

緋水鶏

神

Porzana fusca

クイナ科 ヒメクイナ属

日本全国

23cm

準絶滅危惧 神戸市Bランク
兵庫県Bランク 明石市Aランク

明石川水系に生息し繁殖しています。

明石川水系の水辺や岸の茂みで、カエルやミズズミや虫や植物の種子を食べています。

幼鳥は、真っ黒で、足が太くしっかりしています。(西岡 龍介)



ヒクイナ (絵・藤澤太一)



明石川中流の玉津大橋付近の浅瀬で餌を探している成鳥です。



明石川支流の櫛谷川で、アオダイショウに驚いて飛び出してきたところを保護した幼鳥です。茂みの中から親鳥の声が聞こえ、放すとすぐに親鳥の元に戻りました。

カイツブリ

ハ鳥

神

Tachybaptus ruficollis

カイツブリ科 カイツブリ属
本州中部より南 (留鳥)
本州北部～北海道 (夏鳥)

26cm

明石川水系に1年中いる留鳥で、明石川中流でよく見られ、主に魚貝や甲殻類や昆虫を食べる肉食です。
潜水がとても上手で潜水して餌を捕まえますが、他の鳥と違って、足が体の後ろのほうについて、泳ぐのに便利になっています。
琵琶湖は昔から「ハ鳥の湖(におのうみ)」と呼ばれていて、カイツブリは滋賀県の県鳥にもなっています。(和田勇翔)



カイツブリ (糸会・駒板なみ)



カイツブリが捕れた明石川中流です。この付近の茂みで捕れました。



茂みをガサガサしていて、たまたま網に入ったカイツブリの成鳥です。冬羽なので地味な色をしています。

コウトリ

鶴

神

Ciconia boyciana

コウトリ科 コウトリ属

東アジア

110cm～115cm

絶滅危惧IA類 特別天然記念物

明石川水系の平野大池に冬の水位が低くなった時に時々飛来し、くちばしを泥水に入れて餌を探す姿が遠くから観察できます。多い時は10羽以上います。

くちばしは黒く足は赤いです。目のまわりも赤いですが、赤いのは皮膚の色です。全身と尾羽の色は白色で、風切羽と大雨覆は黒色です。

魚や甲殻類、カエル、ヘビ、昆虫などを食べます。(中初音)



コウトリ

(絵・宮本彩音)



明石川水系の平野大池に冬の水位が低くなると時にコウトリが時々飛来するようになりました。



コウトリはサギと違って目で餌を見つけるのではなくくちばしを水の中に入れて動かして、くちばしに餌が当たったら食べている感じです。

クロツラヘラサギ

黒面 鵜 鷺

神

Platalea minor

トキ科 ヘラサギ属

九州～沖縄県

70～80 cm

絶滅危惧IB類 明石市Aランク

世界的に数が減っていた鳥でしたが最近はお曾えてきます。平野大池で3匹見られました。

クロツラヘラサギという名前がイマイチですがトキの間でくちばしを水の中に入れて左右に振って、くちばしに当たった魚や甲殻類を食べるようすは、コウノトリの餌の食べ方に似ています。(和田 勇翔)

クロツラヘラサギ

(絵・藤澤太一)



平野大池で餌を探す羽のクロツラヘラサギです。クロツラ(黒い顔)がよくわかります。



仲良く餌を探すクロツラヘラサギです。一番後ろのクロツラヘラサギが魚(フナ?)を捕らえました。

アオサギ

青 鷺

神 明

Ardea cinerea

サギ科 アオサギ属

日本全国

90cm

明石川水系や平野大池でよく見るサギで、タイサギと共に
明石川水系では最も大きなサギです。
魚や甲殻類、昆虫、カエル、トカゲ、ヘビなど、川や池にいる
生き物を食べ、河原や池畔で待ち伏せしている姿をよく見ます。
青みがかった灰色をしているので、アオサギと呼ばれています。

(佐野こころ)



アオサギ (絵: 宮本彩音)



明石川下流の輝く水面で待ち伏せをする
シラサギとアオサギです。後ろがアオサギです。



平野大池で待ち伏せをしているアオサギです。
アオサギは明石川の他に平野大池にも
よく来ます。

ダイサギ

大鷺

神明

Ardea alba

サギ科 アオサギ属

日本全国

90cm

神戸市Bランク

明石川水系ではよく見るサギで、アオサギと共に明石川水系では最も大きなサギです。

魚や甲殻類、昆虫、カエル、トカゲ、ヘビなど、川にいる生き物を何でも食べ、待ち伏せやゆっくり歩いて餌を探します。

冬羽は飾り羽がなく、くちばしが黄色くて足は黒いです。

(駒板 なみ)



ダイサギ (絵: 藤澤太一)



明石川中流に集団で餌を食べに来ているダイサギとコサギの群れです。大きいのがダイサギです。



明石川中流で餌を探してゆっくり歩くダイサギです。ダイサギは待ち伏せもしますが、歩いて餌を探すこともあります。

コサギ

小鷺

神 明

Egretta garzetta

サギ科 コサギ属

日本全国

60cm

神戸市Bランク

明石川水系ではよく見るサギで、体が小型なので、小さな水路などにもよく飛来します。

魚や甲殻類、カエルなどを食べますが、大型のサギのような待ち伏せではなく、歩きながら足を小刻みに震わせて、おどろいて飛び出してきた餌を食べたり、逃げる餌を追いかけて軽く飛んで捕まえることもあります。

くちばしが黒く足の指が黄色で、夏羽には冠羽があらわれます。(徳田梨花)



コサギ (絵: 駒板 なみ)



明石川中流で餌を探して歩くコサギです。くちばしが黒く足の指が黄色なので、すぐわかります。



サギの中では小さくて小回りが利くので、コンクリートで囲まれに小さな水路にもよく来ます。後頭部には冠羽があります。

マガモ

真 鴨

神 明

Anas platyrhynchos

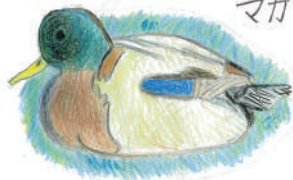
カモ科 マガモ属

日本全国

50 ~ 65 cm

日本で冬を過ごす渡り鳥で、明石川や明石公園の堀でも見られ、繁殖期のオスは濃い緑色の頭と白い首輪模様から「青首」とも呼ばれています。

草食が主の雑食で、春の桜の花が咲く頃に明石公園の中の池で、マガモの親子が見られることがあります。(亙 優愛)

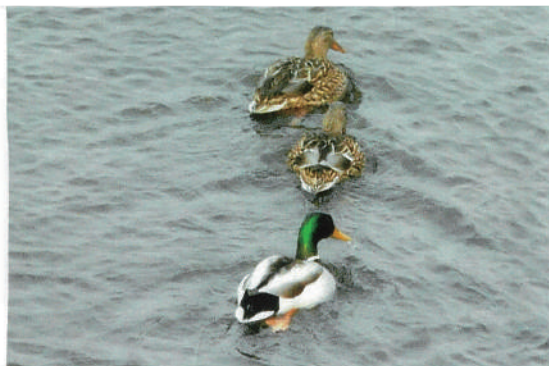


マガモ オス♂



マガモ メス♀

(絵 亙 優愛)



明石川中流にいたマガモです。前の2匹がメスで、後ろの1匹がオスです。



明石川中流の玉津大橋付近にいたマガモです。3組のペアが仲良く泳いでいました。

カルガモ

軽 鴨

神 明

Anas zonorhyncha

カモ科 マガモ属

本州より南

50～65cm

神戸や明石に/年中いる留鳥で、明石川水系や平野大池や稲を植えたばかりの水を張った田んぼでもよく見られます。

オスもメスも同じ色をしていて1年中変わりません。

草食の他に魚貝や昆虫なども食べる雑食で、初夏に明石川や支流の櫛谷川や田中川などで、カルガモの親子が見られます。(佐野こころ)



カルガモ (絵・豆優愛)



明石川中流の玉津大橋付近にいたカルガモの群れです。カルガモはオスもメスも同じ色をしています。



平野大池の近くの田んぼに来たカルガモです。カルガモは田んぼにもよく来ます。

ヒシクイ

菱喰

神

Anser fabalis

カモ科 マガン属

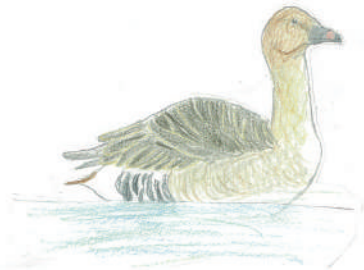
神戸や明石に来ることは珍しい

78cm ~ 89cm

平野大池に来ることはとても珍しい鳥で、オオヒシクイ1羽、オオマガン1羽とともに3羽で来ていました。3羽で平野大池と平野大池のまわりの田んぼを行ったり来たりしていました。

水草のヒシの実が大好きなのでヒシクイという名前がつけられ、平野大池にはヒシがたくさん生えています。
(西岡 龍介)

ヒシクイ (絵・弓削 朱花梨)



明石川水系の平野大池です。コウノトリやクロツラヘラサギなど珍しい鳥がよく来ます。



3羽のマガン属です。一番前(右)がヒシクイで、川根にオオヒシクイ、オオマガンと続きます。

オオマガン

大真雁

神

Anser albifrons gambelli

カモ科 マガン属

神戸や明石に来ることは珍しい

65 cm ~ 86 cm

平野大池に来ることはとても珍しい鳥で、ヒシクイ1羽、オオヒシクイ1羽とともに3羽で来ていました。

3羽で平野大池と平野大池のまわりの田んぼを行ったり来たりしていました。

オオマガンは顔の前面部が白いのが特徴です。

(西岡 龍之介)

オオマガン (絵・藤澤太一)



明石川水系の平野大池です。コウノトリやクロツラヘラサギなど珍しい鳥がよく来ます。



3羽のマガン属です。前(右)から川原にヒシクイ、オオヒシクイで、一番後ろ(左)がオオマガンです。

カワウ

川鵜

神 明

Phalacrocorax carbo

ウ科 ウ属

本州、四国、九州

80 cm

川に潜て魚を追いかけて食べます。色が黒いので、カラスと間違っている人もいます。

翼に油が少ないので、水をはじきにくく、河原や岩の上で翼を広げたまま乾かしている姿をよく見かけます。

夜明けに群れて明石川に魚を食べに飛来します。

(鈴木 詩)



カワウ (絵・鈴木 詩)



夜明けに群れて魚を食べるために明石川中流の玉津大橋付近に集まってきたカワウたちです。



明石川中流の万代井統合井堰のゴミ堰の上で休んでいるカワウです。

カワセミ

翡翠

神 明

Alcedo atthis

カワセミ科 カワセミ属

北海道(夏鳥)

本州より南(留鳥)

17cm 明石市Aランク

明石川水系に1年中いる留鳥で、明石川全域で見られ、田中川用水路のある場所では、ホバリングしながらダイブしてヌマムツを捕まえる様子が見られます。

同じ場所で見られるのはほぼ同じ個体で、魚類の他に甲殻類や水生昆虫も食べる肉食です。

頭が大きくてくちばしが長く、足や尾は短いです。(西岡 龍介)



カワセミ (絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川沿いで休んでいるカワセミです。明石川水系では時々見られます。



明石川中流に合流する支流ですが、この辺りでもカワセミを時々見かけます。

カヤネズミ

茅 鼠



Micromys minutus

ネズミ科 カヤネズミ属

宮城県から南

6cm **神戸市Bランク**
明石市Aランク

明石川水系では明石川上流～中流の河川敷や野原や田んぼのイネやイネ科の植物の葉で直径10cm位の球形の巣を上手に作ります。

イネ科の草の種や昆虫を食べ、収穫前のイネにも巣を作りますが、イネの穂は食べません。

神戸市西区平野町の玉-アクアリウムの手-セリーの中でも、カヤネズミがチガヤに巣作りをしいて、カマキリに食べられているところも見たことがあります。(佐野こころ)



カヤネズミ (絵、弓削朱花梨)



早春に明石川中流調査をした時に河川敷で見つけたカヤネズミの巣です。みんなで観察しました。



アクアリウムの手-セリーの園内で見つけたカヤネズミの巣です。住宅もあり人がよく通り、車もよく通るのに、カヤネズミが巣を作っていました。

ヌートリア

沼狸

神 明

Myocastor coypus

ヌートリア科 ヌートリア属
東海地方より西の西日本各地

40cm~60cm

特定外来生物 **兵庫県警戒種**
総合対策外来種 **神戸版ブラックリスト**
緊急対策外来種 **外来生物種**

南アメリカ原産で毛皮を取るために移入したものが野生化し、西日本各地で増えています。

明石川水系では、明石川中流~下流の他に、支流の櫛谷川や伊川でもよく見られます。(和田 勇翔)



ヌートリア (絵・弓削 朱花梨)



明石川中流の万代井統合井堰付近にいたヌートリアの成体です。この付近にも多く生息していて、時にはケンカをして鳴き声が聞こえることもあります。



明石川支流の櫛谷川の水辺にいた2匹のヌートリアの成体のペアです。この付近では泳いでいる姿もよく見ます。

ニホンイノシシ

日本猪



Sus Scrofa leucomystax

イノシシ科 イノシシ属

本州、四国、九州

110 cm

明石川水系では、支流の福知川の印路川の源流近くに多く生息しています。

その場所にはイノシシが寝転がって全身に泥を塗る沼田場や、その近くの田んぼには、たくさんの足跡や浅く土を掘り起こした跡があり、印路川の源流は玉ーアクアリウムが自転車で山菜採りや調査に来る場所なので、ニホンイノシシは私たちの身近にいます。明石川支流の蛇谷川の源流近くにもいます。

(中 初音)

ニホンイノシシの親子(絵・弓削 朱花梨)



明石川支流の福知川の更に支流の印路川源流にいたニホンイノシシの未成年体です。まだ小さいです。



このニホンイノシシは、近くの道路で事故にあったのか後足に怪我をしていました。意外と身近にいます。

終わりに

〈宮本 彩音〉

私たち玉ーアクリウムが手作りした図鑑はどうでしたか？

大変だったことは、絵を描くことと、文を書くことです。

絵を描いても上手な人に負けてしまうのでそこがむずかしいです。

けれど楽しいこともたくさんあります。

休けい時間にみんなでecoカルタをしたり、雑談をしたり、楽しいこともたくさんあります。

毎年、図鑑作りをして 新しい生き物がどんどん増えているので、この図鑑を見て少しでも生き物に興味を持つ人が増えるとうれしいです。

(大浦 結那)

索引

あ行

アオサキ	150
アオダイショウ	145
アオモンイトトンボ	17
アカエイ	51
アカミガメ	136
アサヒナカワトンボ	19
アベハゼ	105
アメリカザリガニ	9
アユ	55
イシガイ	47

イセゴイ	52
ウキゴリ	115
ウシエビ	2
ウシガエル	132
ウチフヤンマ	22
ウデマガリコカゲロウ	38
ウロハゼ	112
オイカフ	68
オオクチバス	83
オオトゲエラカゲロウ	41
オナシカワゲラ属	42
オオヒライソガニ	12
オオマガン	156

オニヤンマ ————— 24

か行

カイツブリ ————— 147

カタヤシ ————— 120

カマツカ ————— 58

カムルチー ————— 80

カヤネズミ ————— 159

カルガモ ————— 154

カワアナゴ ————— 98

カワウ ————— 157

カワセミ ————— 158

カワムツ ————— 70

カワヨシノボリ ————— 106

カワリヌマエビ属 ————— 8

キイロサナエ ————— 20

キチヌ ————— 94

キギ ————— 122

ギンブナ ————— 64

ギンヤンマ ————— 25

クサガメ ————— 138

クサフグ ————— 130

グッピー ————— 121

クロダイ ————— 93

クロツラヘラサギ ————— 144

クロバンケイガニ ————— 11

クロホシフエダイ ————— 87

クロホシマンジュウダイ	88
ゲンゴロウブナ	63
コイ	62
コウナトリ	148
コウライニゴイ	61
コウライモロコ	59
コオイムシ	30
コオニヤンマ	21
コガタシマトビケラ	43
コガムシ	45
ゴクラクハゼ	109
コサギ	152
コシボソヤンマ	27

コトヒキ	91
コフキトンボ	29
さ行	
サホコカゲロウ	39
サワガニ	16
シオカラトンボ	28
シマイサキ	92
シマヒレヨシノボリ	107
シマフグ	131
シマハビ	144
シマヨシノボリ	108
シロギス	90
シロタニガワカゲロウ	37

シロハラコカゲロウ	40
スジエビ	6
スズキ	81
スッポン	135
スミウキゴリ	116
た行	
タイコウチ	32
ダイサキ	151
タイリクスズキ	82
タイリクバラタナゴ	66
タイワンウチワヤンマ	23
タイワンオオヒライソガニ	13
タイワンシジミ	50

タイワンドジョウ	79
タモロコ	73
チチブ	111
チユウカダスジスドジョウ	76
チラカゲロウ	35
テナガエビ	3
テングヨウジ	127
ドジョウ	77
ドンコ	100
な行	
ナマズ	124
ニホンイシガメ	139
ニホンイノシシ	161

ニホンウナギ	53
ニホンカナヘビ	141
ニホントカゲ	140
ニホンマムシ	142
ヌートリア	160
ヌマガエル	134
ヌマムツ	71
は行	
ハイイロゲンゴロウ	44
ハグロトンボ	18
ヒクイナ	146
ヒシクイ	155
ヒナハゼ	103

ヒバカリ	143
ヒメハゼ	102
ヒメミズカマキリ	34
ヒラテテナガエビ	5
ブルーギル	85
ボラ	128
ま行	
マガモ	153
マゴチ	117
マシジミ	49
マタナゴ	98
マツカサガイ	48
マハゼ	113

ミズカマキリ	33
ミゾ ^レ ヌマエビ [〃]	7
ミナミタカイ	46
ミナミテナガエビ [〃]	4
ミナミメダカ	118
ミミズハセ [〃]	114
ムラソイ	95
メジナ	97
メナダ [〃]	129
モクス ^ガ ニ	15
モツゴ [〃]	75
や行	
ヤリタナゴ [〃]	65

ヨシエビ [〃]	1
ら行	
ロングノーズ ^ガ ー	78

参考文献

(大浦 結那)

松沢陽士著 ポケット図鑑 日本の淡水魚258 文-総合出版

刈田敏三著 新訂 水生生物ハンドブック 文-総合出版

白山義久ほか 指導・執筆 ネオぱけっと水辺の生物 小学館

沖山宗雄 監修・指導 新ポケット版 学研の図鑑 魚 Gakken

神戸市 神戸の希少な野生動植物 神戸版レッドデータ2020

明石市 明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～ガイドブック

土井ほか 南紀生物

永田ほか 兵庫陸水生物

イラストの絵は、ホームページの画像も参考にしています。

監修 西岡 龍之介

(吉川 心音)

表紙・裏表紙 → 駒板 なみ

文章 →	西岡 龍之介	西川 望乃	徳田 桜花	藤澤 太一
	鈴木 詩	中村 颯希	徳田 梨花	大浦 結那
	駒板 なみ	和田 勇翔	中 初音	宮本 彩音
	亘 優愛	竹葉 眞心	人見 歩	佐野 ころ
	吉川 心音			

イラスト →	永田 惇人	藤澤 太一	北井 蒼大	鈴木 詩
	徳田 梨花	弓削 朱花梨	駒板 なみ	大浦 結那
	和田 勇翔	宮本 彩音	亘 優愛	人見 歩

(編集 玉-アクアリウム)

